

孝經	一冊 全	前漢孔安國
論語	三冊 自一至三	朱熹集註
中等科讀書ノ部		
十八史略		
詞八衢		
日本文典		
小品文鈔	三冊 上中下	明治十年五月十六日 土屋榮編
文章軌範正編	二冊 一三四	明治三年庚午再版 朱謝枋得選
中等科習字ノ部		
東京第四大區六小區 竜岡町三番地 土屋榮		

小學習字帖	
中等科算術ノ部	
筆算題叢	十一冊 自一至十一
小學度劫記	
中等科地理ノ部	
日本地誌要略	
新訂地球儀	
大日本國全圖	
暗射日本國全圖	

地球暗射地圖	大洋洲暗射地圖	南亞米利加暗射地圖	北亞米利加暗射地圖	歐羅巴暗射地圖	亞非利加暗射地圖	亞細亞暗射地圖	萬國全圖	輿地誌畧
一軸	一軸	一軸	一軸	一軸	一軸	一軸	一軸	十三冊 自一 至十三
	明治十年二月十一日	明治十年二月十一日	明治十年二月十一日	明治九年一月十五日	明治九年一月十五日	明治九年一月十五日	明治八年乙亥一月再刻	自明治三年 至明治十三年十月
久保讓次編	土方幸勝著	土方幸勝著	土方幸勝著	土方幸勝著	土方幸勝著	土方幸勝著	本 武田簡吾譯	內田正雄編輯 西村茂樹編纂
文部省	東京元大坂町五番地 土方幸勝	東京元大坂町五番地 土方幸勝	東京元大坂町五番地 土方幸勝	東京元大坂町五番地 土方幸勝	東京元大坂町五番地 土方幸勝	東京元大坂町五番地 土方幸勝	東京芝神明前 和泉屋吉兵工發售	大學南校 東京神田區雉子町三十一番地 內田正義

中等科歷史ノ部

皇朝史略	續皇朝史略	訂 續皇朝史略	中等科圖畫ノ部	小學普通書學本	初學人身究理前 後編
六冊	五冊 自一 至五	七冊 自一 至七	中等科生理ノ部	甲 之十冊	前編二冊上下 後編三冊上中下
		明治十四年一月		自明治十一年六月 至同十二年六月	明治六年八月 明治十三年一月
青山延子著	青山延子著	石村貞一纂編		宮本三平編	松山棟菴合譯 森下岩楠 松山棟菴編纂
		石村貞一 大坂府下東區北久寶 寺町四丁目十四番地 梶田喜藏		文部省	東京第二區九小區 三田二丁目十三番地 松山氏 芝區三田二丁目十四 番地 松山棟菴

解體生理圖式	四枚		山田成章撰寫	
中等科博物ノ部				
具氏博物學ノ動物	七冊	自四至十	須川賢久譯	文部省
植學啓蒙	三冊	上中下	松本駒次郎抄譯	大坂府下東區南久寶寺町四丁目三十五番地 前川善兵衛工
礦物小學	全一冊	明治十四年九月	松本榮三郎纂說	東京日本橋區馬喰町二丁目一番地 石川治兵衛工
中等科物理ノ部				
物理全誌	九冊	自一至九	宇田川準一譯	東京第九大區三小區西ヶ原村七十七番地 諸葛信澄
中等科化學ノ部				
小學化學書	三冊	自一至三	市川盛三郎譯	文部省

中等科幾何ノ部				
幾何教科書	一冊	明治十五年十月廿五日	田中矢德編	編者出版
中等科記簿ノ部				
帳合之法初編	二冊	明治九年二月二日	福澤諭吉	慶應義塾
中等科教育學學校管理法ノ部				
彼日氏教授論	一冊	明治九年十二月	和爾漢加斯底爾譯	文部省
教育學	一冊	明治十五年十月十二日	伊澤修二	森重遠
日本教育史畧	一冊	明治十年八月	大槻修二	文部省
小學教育新篇				

再板
合卷
學校管理法

中等科農商ノ部

農業捷徑	一冊	明治十五年十二月	關澄藏	東京銀坐二丁目 中近堂
小學商業書	一冊 全	明治十四年十二月	塚原苔園	東京本郷元町一丁目 五番地 原田庄左衛門

高等科修身ノ部

小學內外篇				
孝經				
論語	四冊 一ヨリ四 ニ至ル			
忠經	一冊 全	明治十五年四月廿 八日	後漢馬融著	

大學

中庸

高等科讀書ノ部

十八史略				
詞八衢				
日本文典				
小品文鈔				
文章軌範正編	三冊 一二三		宋謝枋得選	
文章軌範續編	三冊 一二三		明鄒守益選	

高等科習字ノ部

三体千字文行楷
草

三帖

明治十五年九月

小林義則校
卷 菱澤書

東京日本橋區大傳馬
田三丁目十八番地
文部省

高等科算術ノ部

算題叢

十五册 自一至十五

小學塵劫記

高等科地理ノ部

日本地誌要略

新訂地球儀

大日本國全圖

暗射日本國全圖

輿地誌畧

萬國全圖

亞細亞暗射地圖

亞非利加暗射地圖

歐羅巴暗射地圖

北亞米利加暗射地圖

南亞米利加暗射地圖

大洋洲暗射地圖

地球暗射地圖

地理論略

高等科歴史ノ部

皇朝史略

一册 全

明治十二年八月

荒井郁之助譯述

文部省

續皇朝史略					
訂續々皇朝史略					
十八史略					
元明史略					
清史攬要	六冊	明治十年七月	增田貢著	東京下谷徒士町五番地 應谷行	
萬國史略	十一冊 自十一	明治六年一月	西村茂樹編	東京築地一丁目一番地 西村茂樹	
高等科圖畫ノ部					
小學普通書ノ甲部	十二冊				
用器畫法圖式全書	一一二	明治十五年十一月	平瀬作五郎纂譯	東京銀座三丁目六番地 中近堂	
高等科生理ノ部					

初學人身究理前編					
初學人身究理後編					
弗氏生理書	六冊	明治十五年一月十五日 磯崎	坪井爲春同譯 小林義直	第一區十四小區地 油助六番地 水野慶次郎	
解體生理圖式					
高等科博物ノ部					
具氏博物學ノ動物部					
植學啓蒙					
礦物小學					
金石學	全	明治九年十一月	和田維四郎譯	東京博物館	
高等科物理ノ部					
物理全誌					
高等科化學ノ部					

新式化學	八冊 自一 至八	明治十二年九月	東京 太田雄寧譯纂	東京馬喰町二丁目五番地 村利助
幾何教科書	一冊	明治十五年十月	田中矢德	東京神田五軒町二丁目 中矢德
高等科代數ノ部	高等科代數ノ部			
代數教科書	第一冊	明治十五年一月	田中矢德	東京芝新銀座町十番地 近藤真琴
高等科經濟ノ部	高等科經濟ノ部			
寶氏經濟學	五冊 自一 至五	明治十年十月	永田健助譯	東京第三大區五小區 牛込揚場町十七番地 永田健助
高等科記簿ノ部	高等科記簿ノ部			
帳合之法	四冊 初編			

高等科本邦法令ノ部

類聚法規	九冊目錄 續編三冊全 三編三冊全	明治十一年十月 明治十二年八月 明治十四年五月		司法省
------	------------------------	-------------------------------	--	-----

高等科心理ノ部

奚般氏心理學	二冊 上下	自明治十一年二月 至全 十二年二月	奚般氏 周譯著	文部省
--------	-------	----------------------	------------	-----

高等科教育學學校管理法ノ部

彼日氏教授論				
教育學				
日本教育史略				
小學教育新編				
再板 合卷 學校管理法				

高等科農商ノ部

農業捷徑			
小學商業書			
商業小學	二冊 上下	明治十五年三月廿八日	片山平三郎著
手形ノ心得	一冊 全	明治十三年九月	田口卯吉
土性辨	三冊 上中下	明治八年	佐藤信景著 佐藤信淵增補
參考用書表 博物ノ部			
普通植物學	一冊	明治十四年九月	丹波敬三譯
農商ノ部			
西洋開拓新說	二冊		緒方正譯述
西洋水利新說	三冊 上下 附録		若山儀一譯述
			時中齋藏版
			時中齋藏版
			東京本郷區弓町二丁目廿番地 編者出版

初學山林書	二冊 上下	明治十四年三月	飯島半十郎著	東京北豐島郡金杉村百六十八番地 飯島半十郎著
山林新說	二冊 上下	明治十年十月	片山直人	東京神田區三崎町一丁目九番地 片山直人
山林新說二編	二冊 上下	明治十一年十二月	片山直人	東京神田區三崎町一丁目九番地 片山直人
養蠶全書	一冊 完	明治八年三月	石幡吉三郎著	開拓使藏版
漁村維持法	二冊 上下	明治九年十一月	佐藤信季著	東京市谷町三丁目廿一番地 織田完之
百科漁獵編	二冊 上下	明治七年五月	錦織精之進譯	文 郎 省

卷冊記號出版年月著譯者氏出版者氏等其前ニ於テ之ヲ記スルモノハ
 后之ヲ略シテ書名ノミヲ記ス

第四章 試験規則

第一條 試験ヲ分テ入學試験小試験定期試験卒業試験ノ四トス

第二條 入學試験ハ左ノ六科ヲ試ムルモノトス

一 讀方 皇朝史略十八史略ヲ講讀セシム

一 作文 書牘文及假名交リノ記事論說等ヲ作ラシム

一 算術 筆算ハ諸等ヨリ和較比例マテ
珠算ハ四則應用ヨリ差分マテ

一 習字 楷行草三體

一 地理 本邦及各國地理ノ大要 問題ヲ與ヘテ
筆答セシム

一 歴史 本邦沿革ノ大略 問題ヲ與ヘテ
筆答セシム

第三條 小試験ハ一學期內三回以上五回以下教員ノ見込ヲ以テ既ニ

修學セシ所ノ科業ニ就キ其熟否ヲ試ミ其席次ヲ定ムルモノトス

第四條 定期試験ハ各學期ノ終リニ施行スルモノニシテ該學期內ニ

學習セシ所ノ科業ヲ試ミ其學級ヲ定ムルモノトス

第五條 卒業試験ハ各等科ノ終リニ於テ其修學セシ各學科ヲ通シテ

試験シ卒業證書ヲ授與スルモノトス

但本校ニ入學セスト雖モ各等師範學科ノ卒業證書ヲ乞フ者ハ本

條ニ準シテ試験ス

第六條 試験ハ修身讀方ハ課業書中ノ一二葉ヲ撰ヒテ講讀或ハ句讀

訓義ヲ筆記セシメ作文ハ三題以下習字圖畫ハ一二葉ヲ試ミ授業法

体操ハ平時實際ニ就テ之ヲ檢定シ其他ハ各科五問以上十五問以下

ノ問題ヲ與ヘテ解答ヲ筆記セシムルモノトス

第七條 總テ試験ノ點數ハ每科一百點ト定メ其二分ノ一以上ヲ得ル

モノヲ合格トス行狀出席ノ點數モ亦同シ

第八條 小試験ニ於テ毎月末生徒學業ノ優劣ヲ判スルノ法ハ該月間ニ試験シタル各學科ノ得點及出席行狀ノ點數ヲ合算シ其多寡ヲ以テ之ヲ定ムルモノトス

第九條 定期試験ニ於テ及落ヲ判スルノ法ハ小試験毎科ノ點數ヲ合算シ各其度數ニテ通約シ定期試験各科ノ點數ニ加ヘ折半シ合格ニ充ツル者ヲ及第トス

但一二科ヲ限り不合格ノ者ハ再試験スルヲアルヘシ

第十條 卒業試験ニ於テ及落ヲ判スルノ法ハ定期試験毎科ノ點數ヲ合算シ各其度數ニテ通約シ卒業試験各科ノ點數ニ加ヘ折半シテ合格點ニ充ツル者ヲ及第トス

第十一條 小試験ノ當日病氣等ニテ欠席セシモノ其試験當日ヨリ一週間以内ニ出席スルキハ試験ヲ行フモノトス

第十二條 定期試験ノ當日欠席ノ者ハ其出席ノ日ヨリ二週間以内ニ試験ヲ行フモノトス

但三ヶ月以上欠席ノ者ハ定期試験ヲ行ハサルモノトス

第十三條 總テ試験時間ハ其科目ノ難易ヲ量リ豫メ之ヲ定メテ告知スヘシ

第十四條 定期試験卒業試験ノ日割ハ二週間以前ニ之ヲ揭示シ當日衆庶ノ參觀ヲ許ス

第五章 學資規則

第一條 校費生ノ學資ハ假入學ノ者金五圓本入學ノ者金六圓毎月未

之ヲ給ス

但食料等ハ之ヲ引去リ其殘額ヲ下付スルモノトス

第二條 學資ハ日割ヲ以テ之ヲ給ス若シ事故アリテ歸省或ハ下宿ヲナス者ハ其當日ヨリ給セス

但定例休業及父母ノ忌中ハ此限ニ非ス

第三條 校費生在校中病ニ罹リ入院ヲ命スル者ハ五十日間ヲ限リ入院料ヲ給シ其當日ヨリ學資ヲ給セス

但下宿或ハ歸郷ヲ命スル者モ本條入院料ニ相當スル金額ヲ給ス

第四條 校費生怠惰不品行及ヒ犯則ノ者ニシテ退學ヲ命スル者或ハ不得已事故アリテ退學ヲ願出ツルモノハ在學中給與ノ學資ヲ一時ニ償還セシム

但難治ノ症或ハ學步遲滯ニシテ退學ヲ命スルモノハ此限ニアラス

第五條 校費生卒業ノ後奉職年限内ニ解職ヲ願出ツル者ハ奉職年限不足月數ニ應シタル學資金ヲ一時ニ償還セシム

第六條 校費生各ニ科卒業ノ者ハ小學校教員ヲ命セラレタル當日ヨリ學資ヲ給セス

第七條 自費生ノ本校ニ寄宿スル者ハ毎月上旬食料ヲ納メシム

第八條 學費償還ニ際シ自辨スル能ハサル者ハ保証人ヲシテ之ヲ辨償セシムルモノトス

第六章 舍則

第一條 規則ヲ遵守シ課業ヲ勉勵シ互ニ信義ヲ以テ交ルヘシ

第二條 舍中ニ於テハ取締ノ指揮ニ從フヘシ

第三條 晨起ノ時至ラハ直ニ起テ寢褥ヲ取メ室内ヲ掃除シ就褥ノ時
至ラハ燈ヲ滅シ褥ニ就クヘシ

但就褥後ハ談話スベカラス

第四條 火鉢硝燈等ハ平常意ヲ加ヘ嚴重ニ取扱フヘシ

第五條 猥リニ他室ニ往來シ及ヒ舍内ヲ疾走スヘカラス

第六條 室内及ヒ衣服等ノ汚穢ハ健康ノ大害ナレハ務メテ清潔ニ注
意スヘシ

第七條 毎土曜日午後室内ノ大掃除ヲ爲スヘシ

第八條 定例休日ニハ晨起ヨリ歸舍時限マテ外出ヲ許ス

第九條 出入必名札ヲ以テスヘシ

第十條 冬夏休業中ハ下宿歸省ヲ許スヘシ他ハ本校ノ許可アルニ非
ラサレハ一切外泊ヲ禁ス

第十一條 外出中急病發作シテ門限ニ後ル、キハ必ス其所在主人ノ
証書ニ醫師ノ診斷書ヲ添ヘ歸舍スヘシ若シ當日歸舍スヘカラサル
キハ所在主人ヲ以テ其由届出取締ノ指揮ヲ受クヘシ

第十二條 臨時外出ヲ乞フ者ハ其事情ヲ取糺シ之ヲ許スコアルヘシ
第十三條 病氣ニテ欠課スルモノハ書面ヲ以テ取締ニ届出ツヘシ若
一週間以上ニ及フキハ病院ノ診斷書ヲ添ヘ届出ツヘシ

但欠課シタル者ハ外出ヲ禁ス

第十四條 傳染病或ハ重病ニ罹リタル者ハ醫師ノ診斷ニ因リ病院ニ
入り治療セシムルカ又ハ下宿歸郷ヲ命スルコアルヘシ

第十五條 病氣ニテ下宿或ハ歸郷中ハ二週間毎ニ醫師ノ診斷書ヲ添ヘ届出ツヘシ

但病院アル地方ハ必ス其診斷書ヲ要ス

第十六條 新ニ入舍スル者及歸省若クハ下宿スル者ハ其出入ノ都度書面ヲ以テ届出ツヘシ

第十七條 外來人アルキハ必ス應接所ニ於テ面會スヘシ決シテ室内ニ誘導スヘカラス

但授業時間及ヒ日没後ハ應接ヲ禁ス

第十八條 金銀又ハ衣服ノ貸借ヲ禁ス

第十九條 飲酒放歌ハ勿論稗史小説ヲ讀ミ猥談ヲ爲シ或ハ玩器ヲ取扱フヲ禁ス

第二十條 荷物ヲ門外ニ出スキハ必取締ノ認可ヲ受クヘシ

第二十一條 晨起就褥喫飯散歩ノ時間ヲ表示スル左ノ如シ

項目	期限	晨起	朝食	晝餐	晚餐	散步	就褥
	自四月一日至五月卅一日	午前六時	自七時半至七時	自零時半至十二時	自五時半至五時	自三時至五時	午後十時
	自六月一日至八月卅一日	午後五時	自六時半至六時	自零時半至十二時	自五時半至五時	自五時半至八時	午後十時
	自九月一日至十月卅一日	午前六時	自七時半至七時	自零時半至十二時	自五時半至五時	自三時至五時	午後十時
	自十一月一日至三月卅一日	午前六時半	自七時半至七時	自零時半至十二時	自五時半至五時	自三時至五時	午後十時

第二十二條 食堂心得ヲ設クル左ノ如シ

一食時ヲ報スルトキハ順次食堂ニ赴キ奔走雜沓スヘカラス

一食卓ニ就クキハ互ニ禮ヲ爲シテ喫飯スヘシ

一喫飯時限ヲ三十分トス期ヲ過クル者ハ猥ニ食スルヲ許サス

一食事中猥リニ談笑スヘカラス

一縦ニ庖人ヲ驅使シ或ハ猥ニ食物ノ美惡ヲ評スヘカラス

一食物ヲ散亂シ什器ヲ毀傷スヘカラス

第廿三條 浴室心得ヲ設クル左ノ如シ

一高度ノ湯ハ健康ニ害アルヲ以テ温熱百度ヲ超エシムヘカラス

一浴室ノ用品ヲ粗暴ニ使用スヘカラス

一裸体ニテ室外ニ出ツヘカラス

一放歌吟詩及高聲ニ談話スヘカラス

一入浴及盥嗽時限ノ外猥ニ入ルヘカラス

一總テ不潔ノ事ヲ爲スヘカラス

一入浴時限ハ日ノ長短ニ由リ之ヲ揭示スヘシ

第七章 教場規則

第一條 就課及放課時限ハ點鐘ヲ以テ之ヲ報スヘシ必就課時限ニ後

ルヘカラス

第二條 出席ノ節ハ必袴ヲ着スヘシ授業ノ間ハ殊ニ禮節ヲ修メ

テ靜肅ニスヘシ

第三條 百事教員ノ指揮ニ從ヒ猥ニ出入スヘカラス

第四條 裝置ノ器具ヲ使用シ書籍ヲ散亂スヘカラス

第五條 喫烟談笑スヘカラサルハ勿論其他襟卷等ヲ用フヘカラス

第六條 教場必用ノ品ヲ遺忘スヘカラス

第八章 懲戒規則

- 第一條 凡ソ規則ニ觸レ及ヒ學生ノ耻ツヘキ所行アル者ハ取締其事由ヲ推問シ始末書ヲ出サシメ然ル後左ノ條款ニ照シ之ヲ處分シ尙其事由ヲ記シテ校内ニ揭示スルモノトス
- 第二條 懲戒法ヲ謹慎退校ノ二種ニ分テ其犯由ニ從テ之ヲ處分ス條款ニ洩ル、者ハ類ヲ推シテ臨時之レヲ處分ス
- 第三條 犯由自己ノ怠慢或ハ一時ノ粗暴ニ出ツル者ハ其輕重ニ應シテ三週日ヨリ多カラサル外出ヲ禁シ舍内ニ謹慎ヲ命ス
- 第四條 犯由故意ニ出ツル者或ハ數々規則ヲ犯ス者其他總テ學生不應爲ノ所行アル者ハ詮議ノ上退校ヲ命ス
- 第五條 校有ニ係ル物品ヲ損壞スル者其價ヲ償シメ尙之ヲ處分スル

モノトス

但シ本人分明ナラサルハ其一室内ノ各生ヨリ原價或ハ修覆ノ費用ヲ償ハシム

第六條 左ノ數項ニ涉ル者ハ一日以上一週日以下ノ謹慎ヲ命ス

- 一 教場及ヒ食堂浴室心得ヲ守ラサル者
- 一 室内ノ掃除ヲ怠リ書畫器械衣服等ヲ取亂ス者
- 一 外出ノ節名札ノ取扱ヲ錯ルモノ
- 一 晨起就褥ノ時限ヲ錯ル者又ハ就褥後消燈セサル者
- 一 塀牆ニ攀登スル如キ輕卒ノ舉動ヲ爲ス者
- 一 校内ヲ猥リニ奔走シ又ハ瓦石彈丸ノ類ヲ擲ツモノ

第七條 左ノ數項ニ涉ル者ハ一週日以上二週日以下ノ謹慎ヲ命ス

- 一 歸舍門限ニ後ル、者
 - 一 歸校日限ニ後ル、者
 - 一 猥リニ集會雜談或ハ小説稗史ヲ讀ミ又ハ無用ノ玩物ヲ取扱フ者
 - 一 放歌吟詩其他猥リニ大聲疾呼或ハ罵詈惡言スルモノ
 - 一 他ノ勤學安眠ヲ妨クモノ
 - 一 許可ナク飲食物ヲ室内ニ用ウルモノ
 - 一 金錢衣服等ノ貸借ヲ爲スモノ
 - 一 許可ナク來訪人ヲ室内ニ延ク者
 - 一 戸壁等ニ戲書シ或ハ毀傷スルモノ
 - 一 校内ノ樹木草花ヲ斫拔スルモノ
- 第八條 左ノ數項ニ涉ル者ハ二週日以上三週日以下ノ謹慎ヲ命ス

- 一 貸與品ヲ失ヒ又ハ毀傷スル者
 - 一 舍内ニ於テ飲酒ヲ爲ス者
 - 一 火爐燈火ノ取扱ヲ粗略ニスル者
 - 一 喧嘩爭論ヲナス者
 - 一 外出中酒肆等ニ投遊スル者
- 第九條 左ノ數項ニ涉ル者ハ其事實ヲ取糺シ相當ノ處分ニ及フヘシ
- 一 數度校則ヲ犯シタル者
 - 一 私見ヲ主張シ他生ヲ煽動スル者
 - 一 校員ノ訓誡ヲ用井サル者
 - 一 無届ニシ欠課スル者
 - 一 告達ノ書類ヲ破裂塗抹スル者

- 一 出門定例ノ外許可ナク外出スル者
- 一 故ナク歸舍セス他ニ宿スルモノ
- 一 不品行ニシテ他日教員ニ適應セスト認ムル者
- 一 怠惰ニシテ成業ノ目途ナキ者

第九章 各種書式

第一號

入學願書

用紙美濃紙

何府何國何郡何町何番地

華士族平民何誰子弟(戸主ナレハ之ヲ除ク)

何 某 年 某 齡

右之者儀師範學科校自費修行志願ニ付從來ノ行狀及身上係累ノ有無共取糺候處不都合ノ賸無之且御規則確ト爲相守可申候間御驗試ノ上入

學御許可被成下度別紙履歷書相添此段奉願上候也

函館縣何國何郡何町何番地

華士族平民

年月日

保証人 何 某 印

函館縣何國何郡區

何學區學務委員

何 某 印

函館師範學校御中

履歷書

用紙美濃紙

何府何國何郡何町何番地

華士族平民何ノ誰子弟(戸主ナレハ之ヲ除ク)

一何年何月何日何府縣何學校ニ於テ小學^初中等科第何級或ハ何等科卒業

一何年何月ヨリ何年何月マテ何誰ニ就キ或ハ何地何學校ニ於テ何學修行

一何年何月何日何府縣ニ於テ何等准訓導拜命月俸金何圓一轉免其他賞罰ニ關スル事件ハ詳細之ヲ記載スヘシ

第二號 入學証書 用紙證券界紙

私儀^初中等師範學校校費修行志願ニ付御試驗相願候處入學御許可相成候ニ付テハ卒業ノ後當御管內何ノ小學校へ在勤被命候トモ聊故障不申上候若入學中途ニシテ退校候カ或ハ奉職年限中解職候節ハ學

資規則ニ從ヒ一時ニ償還可仕候依テ証書如件

何府何郡何町何番地

華士族平民何誰子^(其主ナレハ之ヲ除ク)

何 某 印

前書之趣相違無之ニ付私儀保証人ニ相立本人身上ヨリ起候事件ハ一切引受可申且償還金等相滯候節ハ私ヨリ一時ニ辨償可仕候也

函館縣何郡何町何番地

華士族平民

年月日 保証人 何 某 印

右証人在籍前書ノ通相違無之候也

戶長^(証人在籍ノ戶長)

何 某 印

函館師範學校御中

第三號

何等師範學科試驗願書

用紙美濃紙

何府何國何區何町何番地

華士族平民何誰子弟(戶主ナレハ
之ヲ除ク)

何 某、

年初 齡

右之者儀從來ノ行狀篤ト相糺候處聊不都合ノ廉無之候間高等師範學
科御試驗ノ上卒業証書御下付相成度別紙履歷書相添此段奉願候也

函館縣何國何郡何町何番地

華士族平民

保証人 何 某 印

函館縣何國何郡

何學區學務委員

何 某 印

函館師範學校御中

履歷書ハ第壹號ニ同シ

第四號書式 (表面)

(裏面)

番號	卒業證書	何縣府族籍	姓名	年齡	年月日	校印	函館師範學校長姓名印
<p>年月日本校ニ於テ定期ノ教課ヲ卒業セリ依テ此證書ヲ授與ス此證書ハ表面記載ノ日ヨリ七箇年間其効ヲ有スルモノトス</p>							

第五號 (表面)

(裏面)

乙	表面書式甲ニ同シ
<p>本校ニ於テ現ニ施行スル所ノ教則ニ據テ試験ヲ遂ケ且品行等検査ノ上此證書ヲ授與ス此證書ハ表面記載ノ日ヨリ七箇年間其効ヲ有スルモノトス</p>	

第六號 (表面)

丙
表面書式甲ニ同シ

(裏面)

年月日官立何師範學校ニ於テ定期ノ
教課ヲ卒業シ何師範學校卒業證書
受領
年月日官立何師範學校ニ於テ試験ヲ
經テ何等師範學校卒業證書受領
右證書有効年限滿ルヲ以テ本校ニ於
テ現ニ施行スル所ノ教則ニ據テ試験
ヲ遂ケ且品行等検査ノ上此證書ヲ授
與ス
此證書ハ表面記載ノ日ヨリ七箇年間
其効ヲ有スルモノトス
從前卒業證書ヲ受領シタルコト幾回ナ
ルモ悉ク之ヲ記入ス丁書式ノ裏面亦同
シ

第七號 (表面)

丁
表面書式甲ニ同シ
但中等ヲ高等トナスベシ

(裏面)

年月日官立何師範學校ニ於テ定期ノ
教課ヲ卒業シ何等師範學校卒業證書
受領
年月日官立何師範學校ニ於テ試験ヲ
經テ何等師範學校卒業證書受領
年月日官立何師範學校ニ於テ試験ヲ
須キス中等師範學校卒業證書受領何
箇年間小學校教員ノ職ニ在リ能ク其
任ニ勝ユルヲ以テ試験ヲ須キス特ニ
此證書ヲ授與ス
此證書ハ表面記載ノ日ヨリ七ケ年其
効ヲ有スルモノトス

師範學科各級卒業証書式

裏面ナシ

第八號 (表面)

番號	證書
何府族籍	姓名
姓	年齡
年月日	高等師範學科第何級卒業候事
函館師範學校	

第十章 附屬小學校規則

第一條 附屬小學ハ本校生徒ヲシテ授業法ヲ實地ニ習熟セシメ且管

内小學ノ模範ヲ示ス所トス

第二條 生徒ノ定員ハ凡百五十名トス

第三條 教科及試験法等ハ渾テ本縣制定ノ小學校規則ニ從フ

但農商ノ科ハ商業ノミヲ課シ休日ハ本校ノ成規ニ據ルモノトス

第四條 授業料ハ毎月金五拾錢トス

但一家二人以上入學ノ者ハ一人ノ外無料トス

第五條 卒業証書式左ノ如シ

第一號

第二號

番號 證書

番號 証書

何府何國何區何町何番地
何縣何國何郡何村何番地
華士族平民何誰子弟(戸主ナレハ之ヲ除ク)

何府何國何區何町何番地
何縣何國何郡何村何番地
華士族平民何誰子弟(戸主ナレハ之ヲ除ク)

割印

姓 名 年 齡

割印

姓 名 年 齡

小學何等科第何級卒業候事

小學何等科卒業候事

年月日

年月日

函館師範學校

校印

函館師範學校

校印

庶

(番外)

四月廿八日

課 係

本縣勸業課中へ報告係ヲ置キ章程左ノ通相定メ分課章程第三款へ追加候條此旨相達候事

但章程第三款中第十節十八項及第二節十四項ハ删除ス

第六節

報告係

一本課ニ屬スル報告雜誌及諸統計表ヲ編製スル事

一農事及商況通信ノ事務ヲ統括スル事

(番外)

五月五日

函館師範學校

其校職制中末項ニ左ノ一項ヲ追加シ其俸額及ヒ月俸旅費支給法等別

學

紙ノ通相定候條此旨相違候事

一訓導

附屬小學生徒ノ教授ヲ掌ル

附屬小學教員俸額

准官等	十一等	十二等	十三等	十四等	十五等	十六等	十七等
附屬小學	一等訓導	二等訓導	三等訓導	四等訓導	五等訓導	六等訓導	七等訓導
月俸	三十五圓以下	卅五圓以下卅五圓以上	卅五圓以下卅五圓以上	卅五圓以下卅五圓以上	卅五圓以下卅五圓以上	卅五圓以下卅五圓以上	卅五圓以下卅五圓以上

附屬小學教員月俸旅費支給法

第壹條 月俸ハ每月末日(當日休暇ノ其前日)之ヲ支給スルモノトス

但轉任若クハ免職死去等ノ時ハ此限ニ非ス

第貳條 新任轉任増給減給ノ節其月ノ端日數ハ日割ヲ以テ之ヲ支給

スルモノトス

但赴任轉任トモ辭令書受領ノ日ヨリ一週間ヲ經過シテ出發セサルキ其超過日數ハ第三條ノ割合ヲ以テ之ヲ支給スヘシ

第三條 歸省其他私事ニヨリ出勤セサル日數ハ月俸五分ノ一ノ割合ヲ以テ之ヲ支給スヘシ

但養病ノ爲他行スルキモ亦本文ニ準ス

第四條 休業中ハ旅行スルモ月俸ノ全額ヲ給シ病氣引籠中三十日迄ハ全額ヲ給シ其後ハ三分一ヲ給スヘシ

第五條 滿一ケ年以上勤續セシ者解職轉任若クハ死去等ノ節ハ其奉職年數ニ應シ滿一ケ年ニ付月俸半額ヲ給スヘシ

第六條 旅費ハ一日十里詰ヲ以テ表面ノ通日當ヲ支給スヘシ

旅費日當表		并旅行	赴任旅行	晝夜急行	滯留	本縣管内	滯留上
壹圓五拾錢	壹圓九拾錢	壹圓九十錢	五拾錢	壹圓	圓	四拾五錢	

第七條 解職ノ者其日ヨリ三十日以内ニ歸郷申出ツル者ハ表面赴任旅行日當ヲ歸郷旅費トシテ最初採用セシ地迄ノ里程ヲ算シテ支給スベシ

第八條 在勤滿二ケ年以内ニ自己ノ都合ヲ以テ辭職スルモノハ歸郷旅費ヲ支給セス

第九條 官廳又ハ學校ノ都合ヲ以テ解任セシムルハ歸郷旅費ヲ支給スベシ

第十條 前條々ヲ除クノ外一般ノ月俸旅費規則ニ據リテ之ヲ支給スベシ

庶

(番外)

五月廿三日

壽都郡役所

其部内矢道大磯渡島新榮岩崎開進六條七町戸長役場本年六月三十日限相廢止候條以後右事務其郡役所於テ取扱フヘシ此旨相達候事

學

(番外)

五月廿八日

函館商船學校

其校職制并職員俸額別紙之通相定候條此旨相達候事
函館商船學校職制

校長

- 一 縣令ノ命ヲ奉シ本校ノ事務ヲ總理ス
- 一 本校所屬ノ職員ヲ監督ス

- 一 本校所屬職員ノ進退黜陟ハ之ヲ縣令ニ具狀スルヲ得
- 一 事務章程ニ據リ校中ノ庶務ヲ執行ス
- 一 事故アルキハ教諭書記ヲシテ其事務ヲ代理セシムルヲ得
- 一 本校主管ノ事務ハ總テ其責ニ任ス

教諭

- 一 生徒ノ教授ヲ掌ル
- 一 教授ノ得失ヲ熟考シ教則及諸規則改良ノ事ヲ校長ニ協議スルヲ得

助教諭

- 一 教諭職掌ヲ助ク

書記

一 校長ノ指揮ヲ受ケ校中ノ庶務ヲ查辨ス
 函館商船學校職員俸額

函館商船學校	長	准官等	八等以下十等以上	書記	十一等以下十七等以上
俸月	八拾圓以下三拾圓以上	俸月	三拾圓以下拾圓以上	函館商船學校	一等教諭
准官等	八等	函館商船學校	二等教諭	俸月	百五拾圓以下五十七圓以上
俸月	九等	俸月	三十三圓以下三十一圓以上	准官等	八等
函館商船學校	三等教諭	俸月	三十一圓以下二十九圓以上	俸月	六十圓以下四十四圓以上
俸月	十一等	俸月	二十九圓以下二十七圓以上	函館商船學校	二等助教諭
准官等	十二等	俸月	二十七圓以下二十五圓以上	俸月	四十五圓以下三十五圓以上
俸月	十三等	俸月	二十五圓以下二十圓以上	准官等	九等
函館商船學校	三等助教諭	俸月	二十圓以上	俸月	五十圓以上

教諭ハ其職務定時間ニ滿タサルキハ適宜俸額ヲ減給スルヲアルヘシ

警

(番外)

六月六日

警察本署

巡查休暇規則左ノ逋改正候條此旨相達候事

但從前規則ニヨリ己ニ賜ルヘキ休暇日數アルモノハ本則ノ手續ニヨリ繼賜スルヲ得ヘシ

巡查休暇規則

第一條 六月以上勤續ノ者ハ六月毎ニ十五日ノ休暇ヲ與フ尤三回一廿四時間以上欠勤スル月ハ之ヲ除ク

但一回ノ勤務ニ服セサルモノハ不勤ノ部ニ算入スヘシ

第二條 左ノ四項ハ欠勤ノ日數ニ算入セス

- 一 職務上負傷又ハ傳染病療養中ノ日數
- 一 父母ノ祭日

一 忌引

一 此規則ニ依リ休暇シタル日數

第三條 休暇ハ各署十名ニ一名一 娶拾名ニ滿サレモノモ之レニ準スノ割ヲ以テ署長限リ認可スルヲ得

但勤務上ノ都合ニ依リ臨時減員若クハ停止スルヲアルヘシ

第四條 休暇ハ每期終過ノ後之ヲ與フ其日數ハ便宜分合スルヲ得ル

ト雖モ一回三十日限リトス十里以外ニ歸省若クハ旅行スルモノハ八里毎ニ一日ヲ増與スヘシト雖モ逋シテ六十日ヲ過ルヲ得ズ

第五條 休暇中歸省若クハ旅行セントスル者ハ其旨届出署長ノ認可ヲ受クヘシ

第六條 歸省若クハ旅行ノ認可ヲ受ケタル者ハ月俸ヲ前借スルヲ

得ヘシ

但シ月俸ヲ前借スルキハ必ス五日以内ニ發途スヘシ限内發途シ
難キモノハ其事由ヲ具シ五日毎ニ署長ニ届出ヘシ尤モ三十日以
内ニ發途セサルキハ歸省又ハ旅行スルヲ許サス

第七條 歸省若クハ旅行シタル者ハ事由ノ何タルヲ問ハス延期ハ總
テ之ヲ許サス

但途上天災等ニテ意外ノ障碍ニ遇ヒ其証跡(雪支川止等該地警
察署又ハ郡區長戸長ノ証書類ヲ云フ)明確ナル者ハ此限ニ非ス
第八條 歸省中祖父母妻子若クハ兄弟姉妹等至親喪ニ遭フキハ速ニ
其旨署長ニ届出ヘシ

第九條 期限ヲ愆リ歸任セシ者アルキハ懲罰例ニ依リ處分シ仍ホ其

學

愆期日數ノ俸給ヲ扣收セララル、トアルヘシ
(番外) 六月八日

警察本署

巡查召募規則別紙ノ通相定ノ候條此旨相達候事

巡查召募規則

第一條 召募合格ノ者

一年齡 滿廿年以上四十五年以下ニシテ徵兵ニ相當セサルモノ
但シ特ニ職務ニ堪エルト認ムルモノハ本文年齡ノ限ニ
アラス

一身幹 曲尺五尺以上ノ者

一體質 強壯ニシテ職務上ニ害アル疾病ナキ者

一 讀書 普通ノ文書ヲ讀得ル者

一 作文 通俗往復文ヲ綴得ル者

第二條 前條合格ノ者ト雖モ左ノ事故アルモノハ採用スヘカラス

一 公權剝奪停止ニ係ルハ勿論舊法破康耻罪ヲ以テ處刑セラレタル者

一 巡查懲罰例又ハ官吏懲戒例ニ依リ免職後二ケ年ヲ經サル者

一 當縣巡查ニシテ正當ノ事由ナク二ケ年以内ニ退職シ未タ一ケ年

ヲ經サルモノ

一 酒癖アル者

一 身代限リノ處分ヲ受ケ其義務ヲ終ヘサル者

第三條 巡查志願ノ者ハ第八條ノ書式ニ據リ其志願書ニ誓約書履歷

書及ヒ薦舉書ヲ添ヘ警察本署ニ出願セシムヘシ

第四條 身元引受人ハ親屬故舊ヲ論セス身元確實ニシテ管内住居スル者ヲ要ス

第五條 巡查ハ署員ニ於テ薦舉スヘシ

第六條 體格ノ強弱并ニ疾病ノ有無等ハ醫員ニ於テシ其他ハ警部警部補ノ内一名巡查監督一名立會検査スヘシ

第七條 試験官ハ右ニ掲クル所ノ外本人ノ志向及ヒ從來ノ經歷并ニ藝術ノ如何等精細調査シ合格ノ者ハ試験表ヲ製シ警部長ニ申告シ警部長ハ之ヲ縣令ニ具申スヘシ

第八條 巡查志願書并誓約書履歷書及ヒ薦舉書式

巡查志願書

私儀當御縣ニ於テ巡查奉職仕度御試験ノ上御採用被成下度此段奉願候也

年月日

何府何國何郡何町何番地華族士族或ハ何ノ誰平民

長男次男又ハ何々及ヒ寄留人ナレハ寄留

地ノ國郡區町村番地

志願人 何ノ誰印

年 齡

肩書同上

身元引受人 何ノ誰印

縣令宛

誓約書

一職務規則及ヒ上官ノ命令ヲ遵守スルヲ

一正當ノ事故ナク奉職ニケ年以内辭職セサルヲ

一公務ノ傍武技ヲ講習スルヲ

一職務上權外ノ事ヲ論議セサルヲ

一濫リニ金錢等ヲ借用セサルヲ

一飲酒ニ耽リ又ハ遊惰放蕩ヲ爲サ、ルヲ

一寄宿所ニ入ルヲ

但本籍在勤ノ地ニ在リ又ハ父母妻子等アル者ハ此限りニ非ス

一公務及ヒ正當ノ事由ナク夜十二時後他行セサルヲ

右ハ今般巡查職志願候ニ付御採用ノ上ハ前條確守決テ違背致間敷候

依之身元引請人連署誓約書如斯二候也

年月日

肩書同上

志願人 何之誰

肩書同上

身元引請人 何之誰

縣令宛

履歷書

何府縣族籍

何之誰

年号月日

一任何官

院省府縣

同上

一何々申付候事

同上

月俸何圓

同上

一免本官

同上

同上

一何々差免候事

同上

年月日

薦舉書

何府縣族籍

何ノ誰

右ハ巡查職適當ノモノト認め候ニ付薦舉仕候也

年月日

官名誰ノ誰

縣令宛

學

(番外)

六月二十日

函館商船學校

其校規則及生徒規則別冊ノ通り相定候條此旨相達候事

函館商船學校規則

第一章 總則

第一條 本校ハ商船ニ從事スヘキ海員ヲ養成スル所ナリ

第二條 教科ヲ別テ本則變則ノ兩部トシ本則科ハ學期ヲ限り學藝ト

實地演習ヲ併セテ修學セシメ變則科ノ規則ハ別ニ之ヲ設ク

第三條 生徒ハ自費貸費ノ兩種ニシテ其定員ヲ卅名(自費拾名 貸費二拾名)トス

第四條 生徒ハ自費貸費ノ別ナク凡テ本校ニ寄宿セシムルモノトス

第五條 生徒ハ品行端正體質強健年齡十四年以上二十五年以下ニシ

テ小學中等科卒業以上ノ學力ヲ有シ修學中家事ニ係累ナキモノダ

ルヘシ

第六條 修學志願ノ者ハ第壹號書式願書ニ第二號書式履歷書ヲ添ヘ

本校ニ差出スベシ

第七條 生徒ノ募集ハ豫メ之ヲ公告スベシ

但シ臨時出願合格ト認めル者ハ豫備生トシテ自費ヲ以テ入學ヲ

許シ置キ生徒欠員ノ際之ヲ編入スベシ

第八條 生徒入學試驗合格ノ者ハ相當ノ家産ヲ有スル者ヲ保証人トシ郡區長及ヒ戸長ノ調印ヲ捺シタル第三號(自費)或ハ第四號(貸費)書式ノ証書及ヒ第五號書式ノ誓書ヲ差出スベシ

但シ証書及ヒ誓書ヲ差出サ、ル間ハ入校ヲ許サス

第九條 保証人轉居改印其他身分上ノ異動アルキハ必ス本校ニ届出ツベシ

但保証人死亡或ハ公權剝奪又ハ停止ノ處分ヲ受ケタルキハ更ニ保証人ヲ立ベシ

第十條 生徒ハ自費貸費ヲ問ハス第十一條第十二條ノ場合ノ外凡テ學期末滿中途退學ヲ許サス

第十一條 生徒行狀不正或ハ學步遲滯或ハ難治ノ症ニ罹リ到底成業ノ目途ナキ者ハ退校ヲ命ズベシ

第十二條 修業ノ爲メ不具廢人トナリタル者ハ退校ヲ許スベシ

第十三條 貸費生徒ハ全科卒業ノ後少クモ滿十八ヶ月間北海道三縣所轄ノ船舶ニ從事セシム自費生徒卒業スル者ハ其進退自由ニ任ズベシ

第十四條 年中休業左ノ如シ

日曜日

孝明天皇祭

紀元節

春季皇靈祭

一月三十日

二月十一日

春分ノ日

神武天皇祭

四月三日

札幌神社祭

六月十五日

秋季皇靈祭

秋分ノ日

天長節

十一月三日

新嘗祭

十一月廿三日

暑中

八月一日ヨリ
全三十一日ニ至ル

歳末歳始

十二月廿六日ヨリ
一月十日ニ至ル

定期試験後

三日

其他臨時休業ハ其時々揭示スヘシ

第壹號

用紙美濃紙

入校願

私儀自費ナテ航海學修業志願ニ付御試験ノ上入校御許可被成下度
履歷書相添此段願上候也

何府縣華士族平民
何誰子弟

年月日

何誰印

何年何ヶ月

函館商船學校長何誰殿

第貳號

用紙美濃紙

履歷書

何府何國何郡何町何番地

華士族平民何誰子弟(戸主ナレハ之ヲ除ク)

何誰

生 年 月

- 一 何年何月何府縣何學校ニ於テ小學^初中等科第何級或ハ何等卒業
 - 一 何年何月ヨリ何年何月マテ何誰ニ就キ或ハ何地ニ於テ何修業
 - 一 何年何月何日何府縣ニ於テ何拜命月俸金何圓
 - 一 何年何月何日ヨリ何國何郡何村何誰持船何九ヘ何々トシテ乘込
 - 何年何月下船雇止証書何枚所持
 - 一 凡テ賞罰ニ關スル事件ハ詳細ニ記載スベシ
- 前書之通相違無之候也
- 何 誰 印

前書履歷書之通相違無之候也

年 月 日

何府何國何郡何村

戶 長

何 誰 印

第三號

用紙美濃紙

証

何府縣華士族平民

何誰子弟

何 誰

右ノ者今般自費ヲ以テ入學被差許候ニ付テハ修業中御規則之通學資
 金(四季或ハ兩季)ヲ以テ屹度上納可致若シ延滞等有之節ハ私ニ於テ
 辨償可致ハ勿論本人身上ヨリ起候事件ハ一切引受處辨可仕依テ証書

差入候也

何府縣何國何郡何町何番地

華士族平民

年月日

保証人 何 誰 印

右之通相違無之候間奥書調印候也

戶長(証人在籍ノ戸長)

何 誰 印

郡區長(同上)

何 誰 印

函館商船學校長何誰殿

第四號

用紙証券野紙

証

何府縣華士族平民

何誰子弟

何 誰

右ノ者今般貸費ヲ以テ入學被差許御制規ノ學資借用御許可相成候ニ付テハ何事モ御校ノ御規則堅ク爲相守可申万一學資返納等延滞致候節ハ私ニ於テ返辨可致ハ勿論其佗本人身上ヨリ起リ候事件ハ一切引受可申依テ証書差入候也

何府縣何國何郡何町何番地

華士族平民

年月日

保証人 何 誰 印

右之通相違無之候間與書調印候也

戶長(保証人在
籍ノ戸長)

何 誰 印

郡區長(全上)

何 誰 印

函館商船學校長何誰殿

第五號 用紙証券罫紙

誓 書

私儀今般貸自費生徒相願入學被差許候上ハ御規則ハ勿論御校役員ノ命
令堅ク相守リ謹救勉勵致中途ニ無故退學致間敷候依テ誓書差入候也

何府縣華士族平民

年 月 日

何 誰 印

函館商船學校長何誰殿

第六號

遊 號

卒業証書

何府縣華士族平民

姓 名

何年何ヶ月

航海學全科卒業候事

年 月 日

函館商船學校長何某

用 紙 鳥 子

免 狀 雛 形

第二章 教則

第十五條 學科ハ和漢學英學數學測量學運用學技術及實地修業トス
 第十六條 修業ノ年限ヲ五ケ年トス第一第二ノ二ケ年間、本校ニア
 リテ修學セシメ第三第四第五ノ三ケ年間ハ實地修業ニ從事セシム
 第十七條 學年ハ九月一日ニ始リ翌年七月三十日ニ終ル授業時間ハ
 一年凡ソ四十三週每週三十三時間トス
 但土曜日ノ授業ハ三時間トス
 第十八條 學科課程ヲ定ムルヲ左ノ如シ

第五級即第一年前半期

和漢學
 修身 讀書 作文

英學

綴字 習字 譯讀

數學

算術 代數

測量

航用地球名位 羅盤解明 針路改正

運用學

船種ノ區別 船休諸部ノ名稱 船具名稱 索具取付

技術

第四級即第一年後半期

和漢學

修身 讀書 作文

英學

譯讀 講義

數學

幾何 平面三角

測量

航法 日課 海圖用法 航海測量器用法 航用

天球ノ組織明解 航海曆用法 高度改正

運用學

圓材ノ取扱 諸帆ノ裝收 測程測深線 貨物積載

法 信号法 衝突豫防規則

技術

第三級即第二年前半期

和漢學

修身 讀書 作文

英學

講義 作文

數學

海岸測量 弧三角 八線變化法

航海測量

子午線緯度 潮時算法 出沒方位 時辰儀運速測

定 時辰儀經度 方位角 近午緯度 羅針自差

測定

運用

運轉總論

通常運用法

錨及錨鎖ノ取扱

出帆

入港諸法

荒天運用

守錨法

技術

第二級即第二年後半期

和漢學

修身

讀書

作文

英學

對話

測量學

極星緯度

兩高度緯度

時辰儀日差測定法

大圈

航法

航法及天文測量ニヨリ經緯度ヲ得ル諸式ノ

原理

運用學

遭險應法

颶風

雜法

海員心得

技術

第一級即第三第四第五ノ三ヶ年

實地修業

第三章

試驗規則

第十九條

試驗ヲ分テ入學試驗小驗試定期試驗卒業試驗ノ四トス

第二十條

入學試驗ハ左ノ四科ヲ以テ修學志願者ヲ試ミ合格ノ者ハ

試験生トシテ一週間本校ニ通學セシメ其行狀性質ノ何如ヲ察シ更

ニ入學ヲ許否スルモノトス

一 体格

一 讀書 十八史略

一 作文 書牘文及假名交ノ記事文

一 算術 四則應用ヨリ諸比例迄

第廿一條 小試験ハ一學期內三回以上五回以下教員ノ見込ヲ以テ既

ニ學習セシ處ノ科業ニ就キ其熟否ヲ試ミ其席次ヲ定ムルモノトス

第廿二條 定期試験ハ各學期ノ終ニ於テ該學期內ニ學習セシ處ノ科

業ヲ試ミ其學級ヲ定ムルモノトス

第廿三條 卒業試験ハ卒業ノ際本校教則ニ掲ル所ノ諸學科ヲ悉ク試

驗シ合格ノ者ニハ卒業証書(第六号 舊式)ヲ付與スルモノトス

第廿四條 試験ハ左ニ記スル方法ヲ以テ試ムルモノトス

一 和漢學中ノ修身讀書及英學中ノ譯讀講義ハ課業書中ノ一二葉作

文ハ三題以下ヲ試ムルモノトス

一 算術測量ハ問題ヲ與ヘテ其答式ヲ筆記セシム

一 運用ハ口頭ニテ解答セシム

一 技術ハ問題ヲ與ヘ奪ラ實際ニ就テ其熟否ヲ試ム

第廿五條 總テ試験ノ點數ハ毎科一百點ト定メ運用測量ノ二科ハ其

五分ノ三以上其他ノ學科ハ二分ノ一以上ヲ得ルモノヲ合格トス

第廿六條 小試験ニ於テ生徒學業ノ優劣ヲ判スルノ法ハ該月間ニ試

驗シタル各學科ノ得點及行狀ヲ一科トナシ其點數ヲ合算シ其多寡

ヲ以テ之ヲ定ムルモノトス

第廿七條 定期試験ニ於テ及落ヲ判スルノ法ハ小試験毎科ノ點數ヲ合算シ各其度數ニテ通約シ定期試験各科ノ點數ニ加ヘ折半シテ合格點ニ充ツル者ヲ及第トス

第廿八條 卒業試験ニ於テ及落ヲ判スルノ法ハ定期試験毎科ノ點數ヲ合算シ各其度數ニテ通約シ卒業試験各科ノ點數ニ加ヘ折半シテ合格點ニ充ツル者ヲ及第トス

第廿九條 定期試験卒業試験ノ當日欠席ノ者ハ其欠席ノ日ヨリ二週間以内ニ試験スルモノトス

但二ヶ月以上欠席ノ者ハ次ノ學期迄定期試験卒業試験共ニ行ハサルサルモノトス

第三十條 試験ヲ遂クヘキ學科ハ都テ其題ノ難易ヲ量リ受持ノ教員

ヨリ豫メ時限ヲ指示スルヲ以テ若シ其時限ニ至ルモ悉皆答書シ能ハサル者ハ其時限迄ニ認メタル答書ヲ其儘教員ニ呈スベシ

第三十一條 定期試験卒業試験ノ日割ハ二週間以前ニ之ヲ揭示ス

第三十二條 試験問題ノ答書ヲ一度教員ニ差出シタル後ハ假令其文中等ニ誤謬アルヲ心附クモ之ヲ修正スルヲ得ス

第三十三條 都テ試験問題ノ答書ハ成文ケ体裁能ク記載スベシ若シ之ヲ等閑ニ附シ亂書ニ屬スル者ハ假令其答書ハ誤謬ナキモ若干ノ點數ヲ減スルヲアルベシ

第三十四條 學科試験ノ時ニ當リ万一他ノ答書ヲ竊視スル等ノ不都合アルキハ都テ答書ハ無功ノモノト爲スハ勿論時宜ニヨリ嚴罰ニ

處シ或ハ直クニ退學ヲ命スルコアルヘシ

第四章 學資規則

第三十五條 生徒ハ自費貸費ヲ論セス一ヶ月金七圓ヲ日途トシテ衣食及ヒ必需ノ物品ヲ支給ス

第三十六條 貸費生徒ノ學費ハ日割ヲ以テ支給ス若シ事故アリ願ニヨリテ歸省或ハ下宿スル者ハ其當日ヨリ學資ヲ支給セス

但定例休業及ヒ父母ノ忌中ハ此限ニアラス

第三十七條 貸費生徒在校中病ニ罹リ入院ヲ命スル者ハ其當日ヨリ三十日間入院料ヲ支給シ學資ハ其當日ヨリ支給セサルモノトス

第三十八條 貸費生徒實地修業中ハ本校ヨリ仕出セル實費ノミヲ貸費トス

第三十九條 自費生徒學資ハ年四期或ハ兩期ヲ以テ前納セシム年末毎ニ精算過金アルキハ直クニ之ヲ返戻スヘシ

第四十條 貸費生徒ハ年末毎ニ其借用セル額ヲ精算シ更ニ其證書ヲ製シ差出シ置キ成業ノ後月賦返納セシムヘシ

第四十一條 貸費生徒卒業ノ後總則第十三條ヲ全クセル者ハ其貸費ノ幾分ヲ下附スヘシ

第四十二條 貸費生徒總則第十二條ニヨリ退校ヲ許セシ者或ハ卒業ノ後貸費返納未済中職務上ノ怪我ニヨリ廢業ニ至ル者或ハ死亡ニ至ル者ハ現在ノ貸費ヲ返納スルニ及ハス

第四十三條 貸費生徒不得已事故アリ退校願出ル者或ハ總則第十一條ニヨリ退校ヲ命シタル者ハ其費ヲ一時ニ返納セシムヘシ

但難治ノ症或ハ學步遲滯ニシテ退校ヲ命シタル者ハ其事情ニヨリ返納法ヲ斟酌スルコトアルベシ

第四十四條 貸費生徒成業ノ後ハ其得ル所ノ給金十分ノ二以上ニ對スル金額ヲ以テ修學中ノ貸費ヲ連月返納スヘシ

第四十五條 貸費返納ニ際シ自辨シ能ハサル者ハ其保証人ヲシテ之ヲ辨償セシムヘシ

第五章 校章條例

第四十六條 本校生徒及ヒ水夫校僕ト他ノ海員トヲ區別スル爲メ錨ノ左右ニ五菱ノ紋章ヲ附シタル校章ヲ附與スベシ故ニ苟モ之ヲ附シタルモノハ行狀ヲ慎ミ校章ヲ辱カシムルカ如キ所爲アルベカラス

第四十七條 本則生ハ校章ヲ附シタル衣帽ヲ着セシメ變則科修業ノモノ及水夫校僕ハ帽ニ限り着用セシムベシ

第四十八條 校章ハ分テ三種トシ本則生徒ハ金色變則生徒ハ銀色水夫校僕ハ白色トス

第四十九條 校ノ内外ヲ問ハス校章アル帽衣ヲ着スル者ニ出遇フキハ互ニ敬禮ヲナシベシ

第五十條 懲戒規則第四十二條四十三條四十四條ニ涉ル者ハ其實況ニ依リ校章ヲ剝奪或ハ一時停止スルコトアルヘシ

第五十一條 退校スル者ハ總テ校章ヲ返納セシム

第五十二條 校章ハ本校ヨリ給與スルノ外私ニ之ヲ製作スルヲ許サス

第五十三條 校章ヲ毀損シ或ハ遺失シタル者ハ其事由ヲ申出事實不
得止ニ出テタルニ於テハ更ニ附與スヘシ

但シ毀損シタル校章ハ即時返納セシム

函館商船學校生徒規則

第一章 生徒心得

第一條 生徒ハ諸規則ヲ遵守シ課業ヲ勉勵シ互ニ友誼ヲ重ンシ信ヲ
義ヲ厚フシ言行ヲ慎ミ校長教員及ヒ塾監等ノ命令ニ違背スベカラ
ス

第二條 休業日ハ整列後直ニ外出ヲ許ス歸校時限ハ日没時ヲ限リト
ス日没時ハ每週平均ノモノヲ揭示スベシ

第三條 生徒ハ止ムヲ得サル事故アリテ其保証人ヨリ臨時外出ヲ願

出ツルニアラサレハ日曜土曜兩日ノ外決シテ外出ヲ許サス

但外出ノ際ハ必ス當直ニ届ツ出ツヘシ

第四條 生徒外出ノ時ハ塾監ヨリ鑑札ヲ受取り之ヲ受付所ニ差出シ

歸校ノキハ之ヲ同所ヨリ受取り塾監ニ差出スベシ

第五條 校ノ内外ヲ問ハス面識ノ貴人及本校役員ニ出遇フキハ二三

歩前ニ直立シ右手ヲ以テ脱帽敬禮ヲ行ヒ談話アルキハ應對了ル迄

ハ右手ニ帽ヲ提ケ居ルヘシ全輩ニ出遇フキハ互ニ帽縁ニ手ヲ懸ケ

禮式ヲナシ校僕等ニハ適宜ニ答禮スヘシ

第六條 講堂或ハ校舎内脱帽ノ際貴人或ハ本校役員ニ敬禮スルニ直

立上部半身ヲ少シク前方ニ屈スベシ指令或ハ談話アルキハ直立シ

テ應對スベシ

第七條 凡テ禮式ハ鄭重ヲ主トシ輕忽ニナスベカラス

第八條 本校係員ヨリ渡スノ外金錢ヲ所持スヘカラス

第九條 筆紙墨其他定規アル入用品ヲ要スルハ係員ニ申出テ物品

ヲ受取ルヘシ

第十條 書籍其他受業用ノ器械ヲ借用セントスルハ塾監ニ申出テ

塾監ハ係員ノ許可ヲ得テ之ヲ貸與スヘシ

第十一條 衣服ハ時々補綴洗濯ヲナシ努テ清潔ナラシムヘシ

第十二條 毎朝起床号笛ニテ直ニ臥床ヲ出テ速ニ室内等ヲ掃除シ然
ル后テ盥嗽シ更ニ衣服ヲ整フベシ

第十三條 午前惣員整列後直ニ當直及塾監各生徒ノ室内ヲ檢閲シ午
後整列后各室消燈各自寢床ニ就クベシ

第十四條 朝夕整列ノキ病氣或ハ事故アリテ之ヲ欠クハ必ス其時
限前ニ塾監ニ申告シ其許可ヲ受クベシ

第十五條 教場ニ於テ受業ノ始終ニハ必ス第六條ノ禮式ヲナスベシ
但シ本條ノ外教場ニ在テハ令ヲ聞クニアラサレハ何人ニモ禮式
ヲナスニ及ハス

第十六條 受業中若シ質問ノ件アルハ手ヲ舉ケ教員ニ其意ヲ示シ
然ル後質問スヘシ又止ムヲ得サル事故アリ席ヲ離ル、キハ必ス教
員ノ許諾ヲ受クヘシ

第十七條 各室ハ清潔ニナシ置キ紙屑埃塵ヲ掃去シ諸物品ノ亂雜ヲ
正シ火器燈器ハ殊更ニ注意スベシ若シ不都合ノコアルハ其同室
内ノ者其責ニ任スベキモノトス

第十八條 毎土曜日午後一時ヨリ塾監ノ命ヲ受ケ校内大掃除ヲナシ
當直ノ點檢ヲ受クベシ

第十九條 惣員ヲ左右舷ノ三部ニ分テ每舷隔日交番ヲ以テ當番ヲ定
ム當番舷ハ技術上要具ノ扱等生徒負擔ノ事業ニ從事スヘシ

但シ非常ノ應援ハ惣員ニテ從事スヘシ

第二十條 端艇演習ハ豫メ定ムル處ノ乗組人員ニ於テ施行スヘシ又
臨時申合セ演習ヲナサントスルキハ之ヲ塾監ニ請ヒ其指示セル方
面ノ外ニ行ルヘカラス運轉中ハ附屬諸器械ヲ破毀紛失ハ勿論總テ
不体裁ノ所爲ナキ様深ク注意スベシ
但シ運轉ヲ了リ歸校スルキハ塾監ニ告ケ所屬品ノ點檢ヲ受クベ

第二十一條 水泳演習ハ該教員ヨリ豫メ人員并ニ場所等ヲ指示スルヲ
以テ必ス其令ヲ遵奉シ危險ノコナキ様各自ニ於テ注意スヘシ

第二十二條 過テ校内所用ノ物品ヲ毀損シ或ハ紛失スルキハ詳カニ其
事由ヲ塾監ニ申告スベシ

第二十三條 外出ノ際物品ヲ携出スルキハ係員或塾監ノ點檢ヲ受ケ物
品携出切符ヲ申請ケ出門ノキハ之ヲ受付ニ差出スベシ

第二十四條 都テ非常ノ鐘報ヲ聞クキハ夜間ハ速ニ起床シ運動所ニ整
列シ當直ノ指揮ニ從ヒ進退スベシ

第二十五條 夏冬兩期ノ休業ノキハ望ニ依リ或ハ歸省外宿ヲ許可スベ
シ

第二十六條 都テ一時校ヲ離ル、キハ各自借用ノ品ハ悉ク返納スベシ

所有品ヲ殘シ置クキハ風呂敷包等ニ纏括シ名札ヲ附シテ之ヲ係員ニ預置クヘシ

第廿七條 日々ノ課業表ハ豫メ揭示シ置クヲ以テ其時間等誤ラサル様各自注意スベシ

第廿八條 凡号笛ヲ聞クキハ其鳴聲ヲ辨別シ十分時間以内ニ用意スベシ

第廿九條 整列ノキハ衣帽ヲ正ウスベシ

第二章 生徒他船乗組心得

第三十條 生徒校則ニ隨ヒ他ノ船舶ニ乗組ミ修業ノ間ハ其船舶ノ規則ヲ遵守シ船長司官等ノ命令ニ從順シ常ニ品行ヲ正シ不敬ノ所爲アルヘカラス

第卅一條 乗組中ハ賤業ヲ甘受シ毫モ怠慢ノ舉動アルヘカラス

第卅二條 乗組中ハ入港ノ都度航海ノ景況ヲ詳録シ本校ニ報告スベシ

第卅三條 乗組中生徒ノ耻ツヘキ鄙劣ノ所行アル者ハ其實況ニヨリ滿期歸校或ハ直ニ歸校ヲ命シ懲戒ニ處スベシ

第卅四條 滿期歸校ノキニ船長ニ乞フテ雇止証書ヲ受ケ之ヲ本校ニ差出シ併セテ在船中ノ狀況ヲ具陳スヘシ

第三章 懲戒規則

第卅五條 凡テ本校ノ規則ニ觸ル者學生ノ耻ヘキ所行アル者ハ其事由ヲ審問シ始末書ヲ出サシメ後々本章ノ條款ニ照シテ處分シ其文明ナキ者ハ類ヲ推シテ處分スルモノトス

第卅六條 懲戒法ハ退校謹慎罰役直立ノ四トス

第卅七條 退校ハ學校ヲ退ケ爾後本校ノ關係ヲ斷絶スルモノトス

第卅八條 謹慎ハ校内一室ニ閉居セシメ常ニ同寮ト語ヲ交ルヲ禁シ

毎日一時間以内ノ勞役ニ服セシムルモノトス

第卅九條 罰役ハ事ノ賤劣ヲ問ハズ校内ニ於テ勞役ニ服セシムルモ

ノトス

第四十條 直立ハ定時間一處ニ直立セシムルモノトス

第四十一條 犯由故意ニ出ル者ハ重テ以テ論シ自己ノ怠慢一時ノ粗

暴ニアラスシテ全ク過失ニ出テタル者ハ輕テ以テ論ス

第四十二條 左ノ各款ニ觸ル、者ハ退校ヲ命スベシ

一 校長教員ノ教諭ヲ守ラス屢規則ヲ犯ス者

一 他生ヲ煽動シ若シクハ謀ツテ規則ヲ誹難シ校長教員ノ命令ニ抵抗スル者

一 校ノ内外ヲ論セス凡テ本校ノ体面ニ關スル不應爲ノ所行アル者

一 國法禁錮以上ノ實刑ヲ受ケタル者

第四十三條 左ノ各款ニ獨ル、者ハ實況ニヨリ一週間以上二週間以

内ノ謹慎并ニ毎日一時間以内ノ勞役ニ處シ十五點以下十三點以上

ノ不行狀點ヲ附加ス

一 校内ニ於テ飲酒スル者

一 夜間校内ヲ脱シ外遊スル者

一 許可ナク外宿スル者

一 謹慎中再犯ノ者

一校長教員ノ命令ニ従ハサル者及ヒ之ヲ拒ム者

第四十四條 左ノ各款ニ觸ル、者ハ實況ニヨリ一週間以内ノ謹慎并

ニ毎日一時間以内ノ勞役ニ處シ十二點以下十點以上ノ不行狀點ヲ

附加ス

一試験ノ節他ノ答書ヲ偷視スル等ノ所爲アル者

一自己ノ過失ヲ蔽ハシ爲メ曖昧詐僞ヲ申募ル者

一凡テ外出中學生ノ耻ツヘキ輕卒ノ舉動アル者

一凡テ本校役員ニ對シ不敬ノ所爲アル者

一端艇演習ノ際指示セル方面外ニ行キ或ハ猥ニ上陸スル者

一猥リニ集會雜談或ハ稗史ヲ讀ミ風儀ヲ害スル所爲アル者

一猥リニ高聲ヲ發シ或ハ罵詈惡言ナル者

一無届ニテ課業及ヒ整理ノ時間ヲ欠ク者及ヒ偽疾ヲ申立課業ヲ怠

タル者

一休日ノ外晝間外遊スル者

一外出ノ際無故歸校時限一時間以上後ル、者

第四十五條 左ノ各款ニ觸ル、者ハ實況ニヨリ二週間以内毎日一時

間以内ノ勞役ニ處シ九點以下七點以上ノ不行狀點ヲ附加ス

一故ナク飯校時限一時間以内後ル、者

一喧嘩爭論スル者

一放歌吟詩スル者

一猥ニ他人ノ物品ヲ使用スル者

一就眠時間ノ外許可ナク寢床ニ就ク者

- 一 給與品及ヒ賄等ノヲニ付不當ノ申立ヲナス者
 - 一 食事ノ節喧囂ノ舉動ヲナス者
 - 一 校内ノ樹木草花ヲ折拔スル者
 - 一 許可ナク校備ノ器具ヲ弄シ之ヲ毀損スル者
 - 一 校内ニ於テ商人ヨリ直ニ物品ヲ買取ル者
 - 一 外出中定規外ノ衣帽ヲ着ケ徘徊スル者
 - 一 他人ノ勤學及安眠ヲ妨クル者
- 第四十六條 左ノ各款ニ觸ル、者實況ニヨリ一時間以内三十分時間以上ノ直立ニ處シ六點以下四點以上ノ不行狀點ヲ附加ス
- 一 整列及ヒ受業中笑語スル者
 - 一 塗板ニ濫書シ或ハ教員ノ席ヲ犯ス者

- 一 課業中教員ノ許シナク席ヲ離ル、者
 - 一 許可ナク校備ノ器械ヲ弄スル者
 - 一 校内ニ敗棄物ヲ投シ及ヒ板間ニ唾スル者
 - 一 猥ニ他室ニ往來スル者
 - 一 許可ナク應接間ノ外ニ外來人ヲ延ク者
 - 一 講堂ニ於テ輕卒ノ所行アル者
 - 一 外出ノ節名札ノ取扱ヲ錯ル者
 - 一 猥ニ校内ヲ奔走スル者
 - 一 金錢ヲ貸借スル者
- 第四十七條 左ノ各款ニ觸ル、者ハ實況ニヨリ三十分時間以内十五分時間以上ノ直立ニ處シ三點以下ノ不行狀點ヲ附加ス

- 一 謹慎ノ者ニ語ヲ交ヘタル者
 - 一 塾内ヲ取亂シ不潔ニスル者
 - 一 帽ヲ冠セス室外ニ出テ或ハ室内ニ於テ帽ヲ冠スル者
 - 一 掃除及ヒ事業ノ外事業服ヲ着スル者
 - 一 衣服ノ補綴洗濯ヲ怠ル者
 - 一 猥ニ門際ヲ徘徊スル者
 - 一 同寮ニ對シ敬禮ヲ欠ク者及ヒ輕卒不敬ノ言ヲ用フル者
 - 一 講堂着席ニ後ル、者
 - 一 借用品ヲ粗暴ニ扱フ者
- 第四十八條 校備ノ物品ヲ毀損スル者ハ前條々懲戒ヲ加ヘ尙ホ毀損物相當ノ價ヲ償ハシム

第四十九條 種史翫弄物等凡テ風儀ヲ害スルト認ムル物品ハ直チニ之ヲ沒收スルモノトス

第五十條 審問ハ役員二名以上立會ノ上行フモノトス
但シ罰役以下ノ懲戒ハ審問ヲ遂ケス處スルモノトス

函館商船學校變則科規則

第一條 變則科ハ臨時來學ノ海員ニ簡易ノ航海學科ヲ便宜教導スル爲ニ設ク

第二條 變則科ハ學志願ノ者ハ第一號書式ノ入學願書ニ第二號書式ノ履歷書ヲ添ヘ並ニ第二號書式ノ入學証ヲ差出シ指揮ヲ受クヘシ

第三條 變則生徒ハ出入一定ナラサルヲ以テ一定ノ法ヲ設ケテ之ヲ教授シ難シ故ニ第四號離形ノ學科表ヲ製シ之ヲ各自ニ附與シ其表

面課程ノ順次ニ從テ便宜教導スベシ

第四條 變則生徒ハ卒業ノ年限ヲ期セス學科表面ノ課程學修セルキハ之ヲ試験シ其全點五分ノ三以上ヲ得ル者ヲ及第トシ卒業証ヲ附與スベシ

第五條 變則生徒都合エヨリ欠席スルキハ第六號書式ノ届書ヲ差出スベシ若シ三ヶ月ニ涉リ尙ホ出席セサル者ハ退學ト見做スベシ

第六條 變則科ハ休業日ヲ除クノ外午前十時ヨリ午後四時迄ノ内ニ於テ便宜教授シ或ハ夜學ヲ以テスベシ

第七條 變則生徒授業上必需ノ書籍器械ヲ所持セザルモノハ校内ヲ限リ貸與スベシ

但シ借用スル者ハ貸借費トシテ一ヶ月金二十錢ヲ納ムヘシ

第八條 變則生徒品行不良ナル者屢規則ヲ犯ス者校長及ヒ教員ノ命令ニ背ク者ハ退學ヲ命スヘシ

第九條 變則生徒ハ受業料トシテ一ヶ月金五十錢ヲ納ムヘシ
第壹號 用紙美濃紙四ツ切り

入 學 願

私儀變則科入學志願ニ付入校御許容被成下度此段願上候也

向府縣華士族平民
某子弟

年 月 日

何 誰 印

函館商船學校長何誰殿

第二號

用紙美濃紙

履 歷 書

本籍何府縣下何國何郡區何町村何番地何離子弟
宿所函館區何町何番地何誰方

何 誰

年号千支何月生

船舶種類	噸數及石數	在船年限	職 務	航 海 地 方

右之通相違無之候也

年 月 日

何 誰 印

函館商船學校長何誰殿

第三號

用紙証券野紙

入 學 証

何府縣華士族平民

何 誰

右者志願ノ通入學御許容被成下候ニ付テハ御規則屹度爲相守可申萬
一不都合ノ事件有之候節ハ私ニ於テ一切引受處辨可仕依テ保証書差
入候也

宿 所

年 月 日

保証人 何 誰 印

函館商船學校長何誰殿

第四號 表

裏

變則航海學科表	姓名	用
測量	運	用
加減法 乘除法 小數加減法 小數乘除法 羅盤改正 針路各部ノ名稱 地球各部ノ名稱 南北針路 對數用路 東西針路 斜路用路 海圖用法 日誌 航用天球各部ノ名稱大略 航海曆用法 出沒方位 子午線緯度 航用測量器用法 時辰儀經度 潮時算法	船具名稱大略 船具附 測程及測深線ノ要件 諸帆ノ扱 積荷上 海上衝突豫防規則 海員雇入雇止規則 縮帆法 順轉及逆轉法 出入港運轉法 重貨積納法 萬國普通信號法 暴風ノ際船舶運用法 不慮ノ危事ニ處スル法	豫科 普通文讀方 普通作文

第一條 此表ハ變則生其修學セル科程ヲ詳ニセ
 ンカ爲メ附與スルモノナリ

第二條 初學ノ者ハ必ズ表面ノ科程順次修學ス
 ヘシ既ニ習熟セルモノハ其科程ノ下
 へ教員ノ認印ヲ捺スヘシ

第三條 新ニ入學スルモノ此科程中既ニ熟知シ
 アルキハ試験ヲ施シ合格ノ科ハ教員ノ
 認印ヲ捺シ認印ナキ科程ノミヲ教授ス
 ヘシ

第四條 通學ノキハ必ズ該表ヲ持參シ教員ニ差
 出シ指揮ヲ待テ教授ヲ受クベシ

第五條 此表ヲ遺失スルキハ更ニ試験ノ上學了
 セル科程ヘ認印スヘシ

第六條 此表ノ科程ヲ修セルキハ試験ノ上卒
 業証ト引替フヘシ

年 月 日
 函館商船學校

第五號

證號

卒業証書

何府縣華士族平民

姓名

何年何ヶ月

變則航海學科卒業候事

年 月 日

函館商船學校長何某

第六號

用紙美濃紙四ツ切り

御 届

私儀今般(何々ニ付)明日ヨリ欠席仕候間此段御届仕候也

年 月 日

何 誰 印

函館商船學校長何誰殿

庶 (番外)

七月廿八日

奥 尻 郡 役 所

其郡布告布達施行期限ノ儀別紙ノ通内務卿へ伺稟被聞届候條此旨相達候事

布告布達施行期限ノ儀ニ付伺

布告布達施行期限ノ儀今般第十七號布告ヲ以テ制定相成候處其第一

條第四項ニ凡島地ハ所轄郡役所ニ到達ノ翌日ヨリ起算スト有之然ルニ當管下久遠郡役所所轄奥尻郡ノ儀ハ本郡ヨリ十五海里ヲ隔テタル一孤島ニシテ常ニ小艇ヲ泛へ往復ニ便スルヲ以テ晴朗順風ノ日ニ在テハ數時間ニシテ達スルヲ得ルト雖モ偶風浪アルニ際シテハ數日阻滯スルコトモ往々有之殊ニ冬春二季ニ至リテハ海路危險ノ爲メ從來十一月ヨリ春彼岸マテハ航通相絶候次第ニテ實際他郡ト同一視難致場所ニ付該島ニ限リ戸長役場へ到達ノ翌日ヨリ起算候様仕度爲御參考別紙航路略圖相添此段相伺候也

明治十六年六月一日

函館縣令時任爲基

内務卿山田顯義殿

書面伺之趣聞届候事

明治十六年七月二十一日

内務卿山田顯義

勅

(番外)

八月十三日

北海道物産共進會

北海道物産共進會審査規則左ノ通相定候條此旨相達候事

北海道物産共進會審査規則

第一項 褒賞ハ比較對照シ其優逸ナルモノニ付與ス

但北海道ニ於テ産出スルモノニ限ルヘシ

等級左ノ如シ

一等賞金拾圓 二等賞金五圓 三等賞金三圓褒狀

第二項 審査ハ點審表ニ照シ每品精密ニ鑑別シ第四項ノ法ニ據リ級格ヲ擬案シ會幹ヲ經テ稟告スヘシ

第三項 點查ノ要目ハ其物品ニ應シテ各差アリ則チ左ノ如シ

第一區 產種 休格 性質 畜養 効用 產額 事實

第二區 品位 調製 需用 價值 段別 產額 事實

第三區 品位 栽培 反別 收額 効用 價值 事實

第五區 品質 需用 製法 產額 販路 價值 事實

第七區 利用 意匠 耐久 需用 產額 價值 事實

第四項 點數ヲ付スルノ法ハ普通品ヲ以テ三十點トシ卅一點以上六十迄ヲ褒狀六十一點以上八十五點迄ヲ三等八十六點ヨリ九十九點

ヲ二等百點ヲ一等トス普通品ヨリ下ルモノハ適宜劣點ヲ付加ス

第五項 官衙ノ出品ニシテ褒賞スヘキモノハ製生者或ハ採集者若クハ其擔任者ニ對シテ賞狀ヲ擬請スヘシ

第六項 一人ニテ每區へ出品スルモノ每區ニテ優等ニ位スルキハ每區適當ノ褒賞ヲ與フヘシ且一區内へ全種全質ノモノ二三品以上ヲ出スハ妨ケナシト雖モ同等品或ハ賞與等級ニ相當スルキハ併テ一ノ褒賞ヲ與フルモノトス

學

(番外)

八月廿八日

山越郡役所

山越郡山越内八雲兩村

戶長役場

山越郡第二學區

學務委員

山越郡第二學區内舊土人子女ノ教育費トシテ教員月俸金拾三圓(壹

ケ年百五拾六圓)并該生徒ノ學資金四拾四圓合計貳百圓本縣教育補助費ヲ以テ本年(明治十六年七月)ヨリ補給候事
但シ學資ヲ給與スルハ一人ニ付壹ケ年大約金貳圓ノ割合ヲ以テ開拓使函館支廳明治十四年(四月)第廿二号布達貧民子女學資給與規則第四條ニ據リ支給スヘシ

地

(番外)

九月廿一日

郡役所

從來民有ノ海産干場ヲ宅地又ハ田畑ニ變換センコトヲ願フモノアルトキハ其實況ヲ檢査シ海産採取營業上ニ妨害ヲ與ヘス他ニ故障無之ト認定スルモノニ限り地目變換届候條修正地價額取調其時々詳細可申出此旨相達候事

勘

(番外)

十月四日

函館區役所

根室縣ニ於テ産出昆布製造ヲ改良シ聲價ヲ挽回セン爲メ採取規則ヲ設ケ施行ニ付本縣下へ輸入ノ昆布万ニ不良品有之候ハ、昆布結束中へ插入セル証票ヲ添報知候様同縣ヨリ依頼有之候條函館區内昆布商業者ニ於テ不良品ヲ見認候節ハ多少ノ手數ヲ不厭速ニ本縣勸業課へ可届出且ツ産地ヨリ函館港へ回漕ノ途上風波ノ爲メ腐蝕ヲ生シ陸揚ノ上結束ヲ改ムル分ハ別ニ結束ヲ改メタル主意ヲ明記シタル証票ヲ插入輸出致候様該營業人へ篤ク諭達可致爲心得同縣昆布採取營業規則拔萃相添此旨相達候事

(別紙略ス)

學

(番外)

十月六日

山越郡役所

山越郡長萬部村戸長役場

山越郡第三學區

學務委員

山越郡第三學區舊土人子女教育費トシテ教員俸給金百貳拾圓生徒學資金百貳拾四圓合計金百四拾四圓本年度已降本縣教育補助費ヨリ補給ス此旨相達候事

但學資ヲ給スルハ一人ニ付一ケ年大約金貳圓ノ割合ヲ以テ舊開拓使函館支廳明治十四年^四月第二十二号布達貧民子女學資給與規則第四條ニ據リ支給スベシ

地

(番外) 十月十五日

地理課

其課派出山林係員服務心得別冊ノ通相定候條適宜巡察ノ法ヲ設ケ山林事務一層注意可致此旨相達候事
派出山林係員服務心得

第一章 汎則

第二章 伐木檢査

第三章 出張巡視及轉免事務引渡

第四章 犯罪取扱

第五章 制服給與及官品保存

第六章 森林養護

派出山林係員服務心得

第一章 汎則

第一條 管内各郡派出ノ山林係員ハ郡長ノ監督ヲ受ケ山林ノ養護ニ注意シ林木拂下檢査ノ事務ニ従事スルヲ以テ責任トス

第二條 林木ノ培養セサル可カラサルト培養ノ方法アルトテ人民ニ知ラシメ又林木一切ノ件ニ付人民ヨリ尋問スルコトアルハ懇切ニ教示スベシ

第三條 森林ニ關スル法則ノ趣旨ハ常ニ人民ニ懇諭シ遵守セシムルヲ要ス

第四條 森林ニ關ルス布告布達等總テ新令ノ出ルルハ人民ノ信否ヲ考察シテ郡區役所ニ報告スベシ

第五條 病氣歸省忌引等ノ願届出勤簿ハ郡長ノ見留印ヲ得縣廳ニ差
出スベシ

第六條 病氣其他事故アツテ服務シ難キキハ其都度郡役所ヲ經テ縣
廳ヘ届出可シ尤病氣引籠十五日以上ニ亘ルモノハ醫師ノ診斷書ヲ
添フベシ

但郡役所所在ノ地ニ在勤スルモノハ巡回出張ノ外日々該役所ニ
出勤スベシ

第二章 伐木検査手續

第七條 規則ニ由リ林木拂下願出實地調査ヲ乞フモノアレハ速ニ調
査シ其差支ナキモノハ奥書ヲ了シ木數ニ當ル石數代價願書々式ノ
如ク記セシメ願人ヘ交付スベシ其差支アリトム認ルモノハ本人ニ

示諭却下スベシ

但本文却下スルモノハ其旨郡役所ヘ報告スベシ

第八條 營工材ノ調査ハ願面ニ依リ目廻ノ周圍ト長サヲ調査シ相違
ナキハ其樹ノ北面ニ對シ木皮ヲ剥取リ(許)印ノ刻印ヲ爲シ假渡ノ
標識トスベシ

但目廻ノ周圍ヲ取ルハ凡地上ヨリ五尺上リタルケ所ヲ目的トナ
スベシ

第九條 薪炭用材及小木柴等ノ検査ハ差支ナキケ所ニ於テ適宜區域
標式ヲ立テ(四隅ノ立木ノ皮ヲ剥取)願面ニ超過濫伐セシメサル様注意
スベシ

第十條 前條ニ掲クル諸材ノ内薪炭用材及柴ハ再検査ノ節願面ニ超

過スルモノハ其超過ニ係ル員數更ニ拂下ノ手續ヲ爲サシムベシ

第十一條 拂下許可ノ伐材檢印ヲ願フモノアルキハ最初差出タル林木拂下願書ニ照シ相違ナキキハ實地調査ヲ遂ケ木材ノ切り口ノ中央へ永ク印痕ノ存スル様(改)印ノ刻印ヲ爲スベシ

第十二條 桑樹ハ養蠶ニ供スルノ外猥リニ拂下ズ又ドロ柳ノ兩種ハ火藥並燧木製造ノ外ハ拂下ズ尤生籬ノ插木又ハ堤防ノ用ニ供スル等該樹ノ外他ニ代用スヘキ品無之分ハ此限ニ非ス

第十三條 烈シキ風勢ヲ受クル樹林及ヒ嫩樹ハ洗伐ノ外伐採セシム可カラズ又伐木ハ成長ノ年度ヲ計リ年度ニ從ヒ其區畫ヲ部分シ甲乙丙ノ順序ニ由テ伐採セシムヘシ

但稚樹ナキ地カ又ハ樹木稀少ナル地ハ處々ニ種木トナルヘキ良

樹ヲ撰ヒ保存スベシ

第十四條 伐採セシムル樹林ハ先ツ其地ノ風位ヲ熟察スルヲ要ス縱令ハ北風ノ烈シキ地ハ南方ヨリ伐採シ西風ノ烈シキ地ハ東面ヨリ斬伐セシムルノ類ニシテ全林ヲ一時ニ伐尽セシム可カラズ必ス其區域ヲ劃シ漸次伐採セシムヘシ

第十五條 甲地ノ樹林ヲ伐採シテ乙地ニ風害ヲ來タスノ虞アルハ風除トシテ幅四十間以上ノ樹林ヲ存シ置クベシ又道路兩傍百間乃至三百間以内ノ樹木ハ伐採ヲ許サスト雖モ其老廢ノ期ニ迫ルカ或ハ病徴アルカ其他茂密ニ過クル樹木ヲ洗伐スル等總テ森林養護上ヨリスルモノハ此限ニ非ス

第十六條 風力ニ簸揚シ易キ土質カ又高燥ノ地ハ漸次洞伐法ヲ施ス

ベシ洞伐トハ林間ニ向テ樹木チ一直線ニ伐ルノ謂ニシテ漸々漸伐
スルノ旨趣ナリ必ス一時ニ漸伐スル者ニ非ス且洞伐スベキノ地ト
稚樹チ芟傷スルノ恐レアル地ノ秣草ハ芟採セシメサル様注意スベ
シ

第十七條 木材ノ石數及敷束數等ヲ算スルニハ左ノ算則ヲ用ユベシ

壹石トハ方壹尺長壹丈チ云フ石以下チ合
位ニ止ム合以下ハ四拾五入ノ法ヲ用フ

壹墩トハ長二尺五寸高五尺横六尺ニ累積シタルモノヲ云フ
敷以下チ分厘トス厘以下四拾五入以下之ニ做フ

壹束トハ五尺繩壹丸チ云フ束以下分厘トス

算則

求石 口徑ヲ自乘シ之ニ圓積率 $\frac{78}{54}$ ナ乘シ又長チ乘シ壹 $\left(\frac{\text{壹石}}{\text{ノ積}}\right)$ ナ

以テ除ス

求墩 高徑ニ横徑ヲ乘シ之ニ長チ乘シ七五 $\left(\frac{\text{壹墩}}{\text{ノ積}}\right)$ ナ以テ除ス

求束 高徑ハ横徑ヲ乘シ一九九 $\left(\frac{\text{一束}}{\text{ノ平方積}}\right)$ ナ以テ除ス

第十八條 伐採シタル各種ノ木材チ丈量スルハ左ノ方法ヲ用ユベシ

丈量法

一營工材

地上ヨリ五尺上リタルケ所ニ於テ目通ノ周圍ヲ量リ圓周率 $\frac{3.14}{4}$ ナ以テ除
シ口徑ヲ定ム長ハ凡地上方四分ノ三ノケ所チ目途トシ目分量チ以テ定ム

一薪炭材

ヘシ本末句配ノ差ハ樹梢チ以テ之レニ充テ現材ヨリ引去ニ及ハサルヘシ
左右ノ高徑チ和シニテ除シ高徑トナス上下ノ横徑ヲ和シニテ除シ以
テ横徑トナス左右上下ノ長チ和シ以テ長徑トナス

一柴

東數角形ニ累積セシメ左右ノ高徑チ和シニテ除シ高徑トス上下ノ横徑
チ和シニテ除シ横徑トス

木皮チ以テ檢査スルモノハ壹貫目小木何本ト見做シ算出壹本何錢
ノ割チ以テ代價ヲ付スベシ

第三章 出張巡視及轉任事務引渡

第十九條 職務上ニテ出張又ハ巡回ノ節ハ服務日記ヲ製シ左ノ書式

ニ做可戸長ノ見留印ヲ受ケ旅費表ヲ副ヘ郡役所ニ差出スベシ
(服務日記書式)

服務日記		年	月	日	巡	回	事	由	滯	在		
何	日	何村字何ノ山	ヨリ何々山ヲ	經テ何村ニ至	ル	何ノ誰(外)幾人	薪用材 幾數 掘下檢査	營工 幾十本 全上	炭材 幾個 全上	小柴 何十本 全上	小柴 何十本 全上	里程何里

第二十條 轉任及免職等ノ節ハ事務ノ順序及着手中ノ事件ニ付後來ノ見込書ヲ作り諸帳簿並器具等目錄ヲ添ヘ引渡シ互ニ受渡証書ヲ

交換スベシ

第四章 犯罪取扱

第廿一條 森林ニ關ス法則ニ違犯スルモノアレハ其事實ヲ推問シ罪狀並損害ノ如何等可及的精密ニ取調郡役所ヘ協議告發ノ手續ヲ爲スベシ

但事至急ニ出ルモノハ直ニ告發ノ手續ヲ爲シ其寫書ヲ添ヘ郡役所ニ報告スベシ

第廿二條 盜難ニ係ル告發處分濟贓物ノ還給ヲ受タルハ其寫添郡役所ニ報告スベシ

第廿三條 官林ニ關ルズ贓物公賣ニ際シ郡役所又ハ戸長役場ヨリ之ガ立會ヲ乞フキハ之ニ應シ代價ノ當否ヲ陳述スベシ

第五章 制服給與及官品保存

第廿四條 衣服ハ毎年冬夏兩度ニ給與ス尤職務上不慮ノ事ニ際會シ破損亡失セシキハ檢査ノ上更ニ給與スルヲアルヘシ

第廿五條 衣服ハ給與シタル月ヨリ滿三ヶ月ニ至ラスシテ轉任又ハ退職スルモノハ該衣服ハ悉皆返納スヘシ三ヶ月以上ニ及フト雖モ滿六ヶ月以上勤續ノモノハ徽章ノミ返納スベシ

第廿六條 職務上他出ノ節ハ制服着用スベキハ勿論ト雖モ若シ着用シカダキ事故アルキハ必ス制帽ヲ用ユベシ

第廿七條 林木檢査用器具等總テ官ヨリ下渡シタルモノハ鄭重ニ取扱フヘシ若シ遺失毀損等有之節ハ取糺シ其不注意ヨリ生スルモノト認ムルキハ現品或ハ代價ヲ以テ辨償セシムルヲアルヘシ

第廿八條 左ノ簿冊ハ紛錯セサル様注意保存スベシ

一 林木拂下願書 編冊

一 木材檢印願書 編冊

一 文 移 錄

一 布 達 々 錄

第六章 森林養護

第廿九條 巡林ノ際專ラ官林改良上ニ注意シ利害アルキハ勿論都テ材木ニ關シタル事及官林内ニ生セシ事故ハ其都度郡役所ヘ報告スベシ

第三十條 播種植苗スルト植蒔成切ノ後養護ノ方法ハ別紙内務省播種規則ニ依ルベシ

第卅一條 山野ニ火アルキハ速ニ近里ノ人民ヲ召集シ消防ニ從事セ

シメ之レカ指揮ヲ爲スベシ

但燒失或ハ損害ニ罹リタル樹林ノ員數及ヒ反別等ハ可及的詳細

ニ取調圖面ヲ添ヘ其時々郡役所ヲ經テ地理課ヘ報告スベシ

消防心得

一 杪火火ノ樹杪ヲ走ルモノハ風下ノ樹ヲ切り火ノ方ニ倒スベシ

一 幹火火ノ樹幹ヲ燒クモノハ風ナキハ生樹ノ枝葉凡テ潤葉樹ノ水分多シテ厚硬ナルモノ或

ハ土砂投スベシ風アルキハ下草ヲ芟ルヲ良トス地表火椎樹或ハ下草ヲ燒ク者

モ亦水分ノ多キ潤葉樹ノ枝葉ヲ投スルヲ良トス

一 土火泥炭腐草ヲ燒クモノハ溝壕ヲ縱横ニ鑿ルヲ良トス

第卅二條 野火消防ニ從事シタルモノハ左ノ通支給スルニ付人名取

調報告書トニ共戸長役場ヲ經テ郡役所ヘ差出スベシ

但消防ニヨリ死傷ノ者ハ明治八年第五十四號公達ニ準據シテ手

當ヲ給與スルニ依リ詳細具狀スベシ

一 壹日一人ニ付 草鞋貳足

一 辨當料一飯一人ニ付 白米三合

一 茶代全壹人ニ付 金壹錢

(番外) 十月廿九日

警察本署

同盟縣警察官吊慰法別紙ノ通施行候條此旨相達候事

同盟縣警察官吊慰法

第一條 同盟警察官吏職務上危嶮ヲ冒シ死傷シタル者ヲ相互ニ吊慰

スル爲メ此法ヲ設ク

第二條 同盟縣左ノ如シ

宮城 福島 岩手 青森 山形 秋田 函館 札幌

第三條 此法ニ依リ吊慰スル官吏左ノ如シ

第一 縣令書記官警部長

第二 警部警部補

第三 巡查

第四條 吊慰ハ左ノ例圖ニ依リ金圖ヲ増與ス其傷痕ノ輕重等級ヲ區別スルハ公立病院ノ診斷書ニ依リ本屬長官之ヲ定ム

圖 例 慰 吊	死ニ至ルモノ	一等傷痕	二等傷痕	三等傷痕
各員月俸百分ノ一	重傷死ニ至ラズト雖モ終身自由ヲ辨スル能ハサルモノ	自己ノ動作ヲ得ルト雖モ終身事業ヲ營ムヲ能ハサルモノ	事業ヲ營ムヲ得ルト雖モ終身不具ニ至ルモノ	
各員月俸百分ノ一				
各員月俸百分ノ二				
各員月俸百分ノ一				

第五條 死者ハ死セシ日ヨリ十五日以内傷痕者ハ粗ホ疵ノ癒ルヲ俟テ輕重ノ等級ヲ査定詳記シ同盟縣へ通牒スヘシ

第六條 前條ノ通牒ヲ得タル日ハ到達ノ日ヨリ三十日以内ニ寄贈スルモノトス

第七條 死ニ至ル者ノ吊慰金ハ遺族ニ給シ一等傷痕以下ハ直チニ本人ニ給ス其他管内ニ在ルモノハ其廳ニ贈致ス若死者ノ遺族ナキハ紀念碑ヲ建テ其功績ヲ勒シ永ク祭祀ヲ爲スノ方法ヲ設クヘシ

但本條ノ場合ニ於テハ其事由ヲ同盟縣ヘ報告スヘシ
第八條 前條ニ掲クル外戰時ノ死傷及流行病豫防ノ爲メ病死シタ
者ハ此法ヲ適用セス

地

(番外)

十月三十一日

郡役所

天變地異ハ総テ氣象ニ關係有之候ニ付雷電雹霰雪霜風雨早澇地震噴
火光物隕石海嘯等乃チ臨時異兆ノ現象有之節ハ當廳測候所ハ勿論或
ハ内務省氣象臺ヨリ直クニ其郡役所ヘ問合候儀モ可有之候條其節ハ
速ニ應答可致此旨相達候事
但内務省氣象臺ヨリ直ニ問合アリ應答ノ節ハ其顛末當廳測候所ヘ
報告スヘシ

庶

(番外)

十一月八日

課係

警察本署

監獄署

別紙ノ通租稅課出納課ヘ相達候條此旨相達候事

庶

(番外)

十一月八日

租稅課

其課章程中左ノ通追加更正候條此旨相達候事

一第一節(國稅係)第十項ヘ左ノ一項ヲ增加シ從前ノ第十項以下順
次操下ノコ

產物稅庫ヲ管掌スル事

一第二節(地方稅係)第五項へ第三節(雜務係)第二項ヲ移シ從前ノ
第五項以下順次操下ノ事

庶

(番外) 十一月八日

出納課

其課調查係自今檢査係ト改稱候條此旨相達候事

庶

(番外) 十一月八日

課係

警察本署

監獄署

自今上局ヲ本局ト稱シ局中調查係ヲ置キ事務章程別紙ノ通相定分課
章程第壹款ニ加入ス

但分課章程中抵觸ノ廉ハ消滅ノ儀ト心得ヘシ

庶務課中職務係ヲ本局ニ付屬シ調查係ノ次ニ列ス

右相達候事

本局 附屬 調查係事務章程

本係ハ左ノ事務ヲ管掌シ又特ニ本局ノ命ヲ受ケ諸文案ヲ草シ及意見
ヲ陳述スルモノトス

一諸課係起草ノ規則創足改正等ヲ審按スル事

一郡區町村變更ノ事

一議會ニ關スル事

一官吏懲戒ニ關スル事

一諸建白ヲ受理スル事

學

一諸官員及偏等慰勞手當ニ關スル事務ニ參與スル事
一賞譽ニ關スル事務ニ參與スル事

(番外)

十一月廿二日

縣立學校

町村立學校

別紙太政官明治三年^正布告灯提印之件同八年^四第六拾五號達同上^七
第百十九號公達同九年^四第三十四號達同十四年^五第三十七號達宮内
省同十四年^七乙第五號達太政官同十五年^七第四十四號達ノ儀ハ縣立
學校々長教諭助教諭訓導書記并ニ町村立小學校々長訓導ヘモ一般ニ
適用スベキ儀ニ候條爲心得此旨相達候事

(別紙略ス)

學

(番外)

十一月廿六日

縣立學校

町村立學校

私立學校

本縣師範學校規則第一章第二十一條小學校職員規則第一章第七條同
第二章第二十條學校幼稚園書籍館規則第一章第十條但書教員品行ノ
儀ハ別紙規則ニ據リ檢定候條此旨相達候事
但學校長ヘモ適用候事

學校教員品行檢定規則

學校教員ノ品行ハ左ノ一款若クハ數款ニ觸ル、者ヲ以テ品行不正ト
認ムルモノトス

第一款 舊法ニ依リ懲役若クハ禁獄若シハ禁錮ノ刑ヲ受ケタル者
但贖金罰金ヲ納ムル能ハスル者本文ノ刑ニ處セラレタル者ハ此
限ニアラス

第二款 新法ニ依リ懲役若クハ禁獄若シハ禁錮ノ刑ヲ受ケタル者
俗ヲ害スル罪ヲ犯シ罰金ノ刑ニ處セラレ若クハ監視ニ付セラレ
タル者

但信用又ハ風俗ヲ害スル罪ニアラサルモノヲ犯シ罰金ヲ納ムル
コト能ハスシテ輕禁錮ノ刑ニ處セラレタル者ハ此限ニアラス
第三款 前條ノ刑ヲ受ケ存留養親老小廢疾婦女等ノ故ヲ以テ收贖ヲ
聽サレタル者

第四款 身代限ノ處分ヲ受ケ未タ辨償ノ義務ヲ終ヘサル者

庶

第五款 荒亂暴激等總テ教員タルノ面目ニ關スル汚行アル者
(番外) 十二月十三日

函館區役所

其區内戸長役場本年本月三十一日限相廢止候條爾後右事務ハ其役所
ニ於テ可取扱此旨相達候事

但戸長役場經費殘額ハ返納スヘシ

警

(番外) 十二月十七日

警察本署

明治十五年六月三十日達巡查被服保存期限表中外套ノ欄八ヶ月ヲ二
ヶ年夏上衣及袴ノ欄六ヶ月ヲ四ヶ月ト改メ備考第三項ヲ删除ス
右相達候事

發

(番外)

十二月十七日

警察本署

明治十五年六月三十日達巡查特別給與品中寒防品ノ襟卷手袋紺雲滌短上衣白紋羽肌着股引給與ヲ止メ自今紺羅紗肩掛ヲ給與候條此旨相達候事

明治十五年布達々中正誤

昨明治十五年^{九月}丙第九号達雜收入金上納順序第二項但書中^{月一}第九号^{八月}第七十号第六條ハ第四條却下ハ下渡ノ誤

百六十	百四十	百卅九	百卅五	百十九	百十八	百十五	九十	六十三	五十九	五十六	同	五十	卅四	廿六	廿四	丁
八	十	九	二	三	十一	五	十一	四	十	七	十一	九	三	十	一	行
入費	告公	第二項	意見ニ	事務委員	四月六日	何何	校學	二十分	雜誌	須臾	法ニフ	減ス適	別所	政績	續法	誤
入費	告公	第三項	意見ナ	事務委員	四月十六日	何月	學校	三十分	雜誌	須臾	法ニ適フ	減ス	別地	政績	讀法	正
二百六十	二百五十八	二百五十四	二百五十二	二百五十一	二百四十六	同	二百卅三	二百廿九	二百廿一	百九十九	百九十四	百八十七	百七十四	百六十五	百六十三	丁
一	七	六	九	八	九	八	六	八	二	二	十一	五	四	九	五	行
八坂村	錯紛亂	蚊柱	厚村	十一月	高生村	閑廳	一月十七日	特卜	何何々	家價	別紙	此達	警察署	區域ニ	未製造	誤
八坂村	錯紛亂	蚊柱	原村	十二月	高生四村	閑廳	一月十八日	特二	字何々	定價	印紙	此布達	警察署	區域内ニ	未製成	正

本

編

正

誤

四百五十六	十	阿野	阿野	河野	河野	六百廿八	九	拾石	五拾石
四百六十一	三	阿野	(乙十七号)	河野	(乙十七号)	六百卅五	三	在勤	在勤
四百六十三	三	(乙十七号)	(乙十七号)	河野	(乙十七号)	六百卅六	八	建綱堂統	建綱堂統
四百七十六	八	直鶴村	直鶴村	真鶴村	真鶴村	六百四十五	一	推積	推積
五百三十六	十一	四升	四升	貳升	貳升	六百六十五	六	揚ケタル	揚ケタル
五百四十三	二	四十七年四月五十七年四月	四十七年四月五十七年四月	四十七年四月	四十七年四月	六百七十一	五	住居ス場所	住居スル場所
五百五十一	七	泊川村	泊川村	泊川町	泊川町	六百七十二	二	第一二三號	第一二三部
同	十	厩候	厩候	厩出候	厩出候	六百八十六	六	ニ於テ電話	ニ於テ生徒ニ電話
五百五十二	七	植久左衛門	植久左衛門	植久左衛門	植久左衛門	六百九十	五	欠ニ	欠ニ
五百六十五	九	小田川	小田川	小田井	小田井	六百九十二	三	百般ノ技術	百般ノ製造技術
五百七十四	七	都區役所	都區役所	都區役所	都區役所	六百九十五	二	現會モシメ	現會モシメ
五百七十六	十	明治五年	明治五年	明治十五年	明治十五年	六百九十七	二	無機化子	無機化學
五百七十七	一	甲ノ百號	甲ノ百號	甲乙兩號	甲乙兩號	七百卅二	五	妙クモノ	妙クルモノ
同	同	明細書	明細書	明細表	明細表	七百五十三	表	俸月	俸月
五百八十七	九	手續料	手續料	手数料	手数料	七百五十六	九	至親喪ニ	至親ノ喪ニ
五百九十五	十	四月十日	四月十日	八月十日	八月十日	七百五十七	六	官史	官史
五百九十九	七	何同何圖	何同何圖	何同何圖	何同何圖	七百五十八	六	官史	官史
六百廿八	三	何同何圖	何同何圖	何同何圖	何同何圖	七百七十一	四	美濃紙	美濃紙

二百六十	二	十二年以前	十二年九月以前	三百七十八	就學ノ欄	在家底	在家底
二百六十二	四	告第三十五号	告第二十五号	同	除名ノ欄	他府郡	他府郡
二百六十四	四	爲可取扱	可爲取扱	三百八十二	公學金出納	有志寄付金	有志寄付金
二百七十三	八	出致	可致	三百八十三	學校家屋坪	坪合厘	坪合勺
二百七十八	七	内原戸長役場	内原村戸長役場	同	同上價ノ欄内	圓錢坪	圓錢厘
同	十	本郷村	本郷村	三百八十四		乙号第三式	丙号第一式
二百八十九	四	捺シヘシ	捺スヘシ	同		第何學區學齡	學齡就學調査表
三百六	七	都留村	都留郡	同	不修學ノ欄	有事由	有事故
同	十	度會村	度會郡	三百八十六	在籍生徒ノ欄内	年輪	學齡
三百廿六	十	下股引	下股引	三百八十七	公立小學校	一覽表	公立及私立小
三百卅一	郡區役所	志願	爾志	三百九十	表尾	明治年月日	明治年月日調
同	郡區役所	渡島島	渡島	三百九十五	差等ノ欄	學發委員給料	學發委員給料
三百五十五	八	長男	長次	四百一	一	町村小學校	町村立小學校
三百五十九	五	本年學齡	本年中學齡	四百四	三	移轉ノ	移轉ノ
三百六十	七	件名計數	件名及計數	四百九	十一	郡役所	郡區役所
三百七十四	七	甲第九号式	甲号第九式	四百十四	七	初等	初度
同		教員及卒業生徒	教員及卒業生徒	四百十八	五	小學物理講義	小學物理講義
三百七十五		學齡簿	學齡簿	四百卅三	一	合テステ	合テステ

七百八十四	二	試験	試験	八百十四	十	點查表	點查表
七百九十七	十一	文明	明文	八百廿八	服務日記表中	燈工電	燈工材
七百九十九	五	獨ル、	獨ル、	同	同	炭材	炭電
八百	九	演習ノ際指示	演習ノ際指示	八百卅六	二	病死シタチ	病死シタル
八百五	九	第二號	第三號	八百四十	一	備等	備等

明治十七年九月廿五日出版屆

同 年十月 出版

非 賣

編纂 出版 函 館 縣

97786

1000

1000

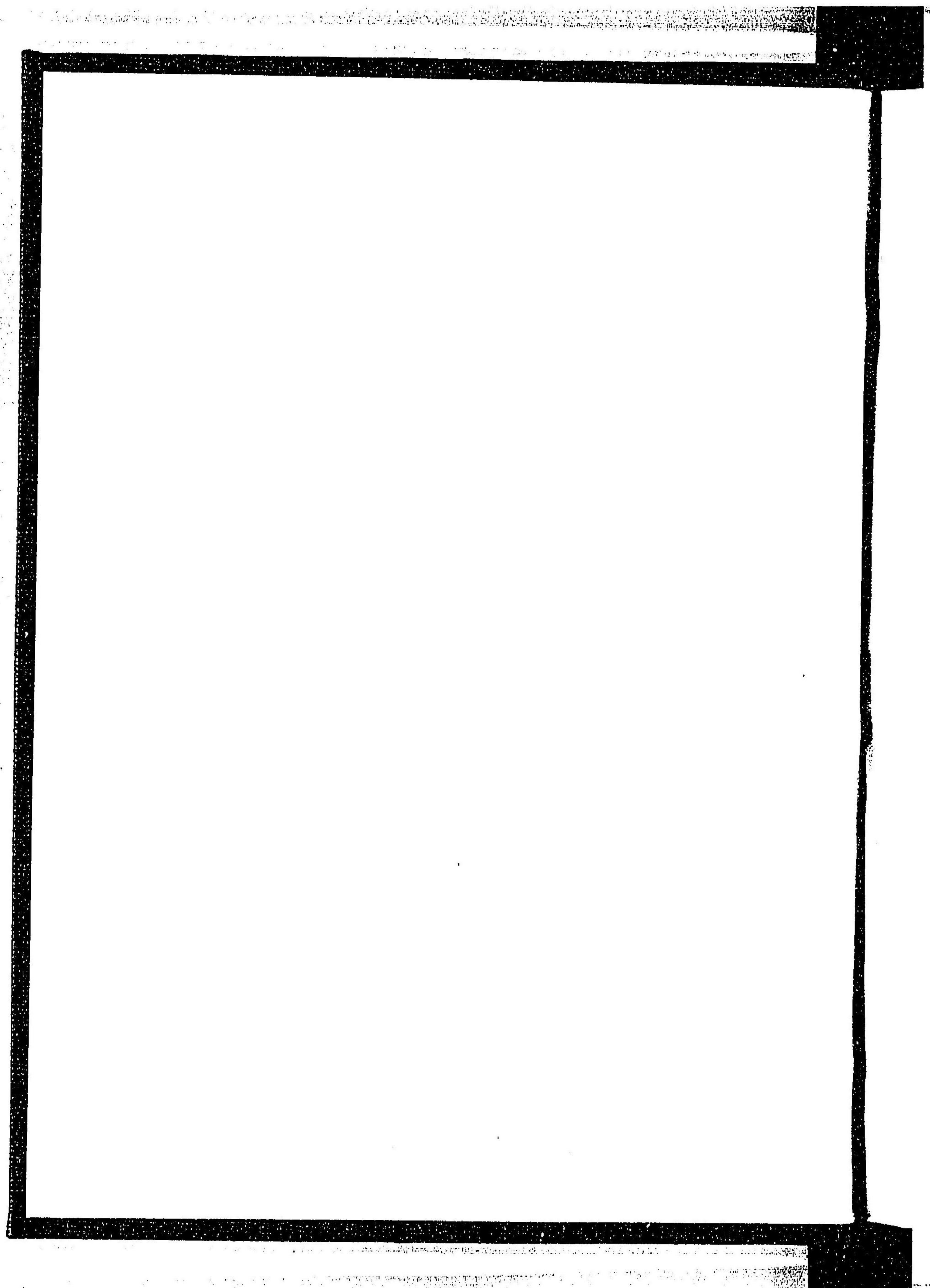
1000

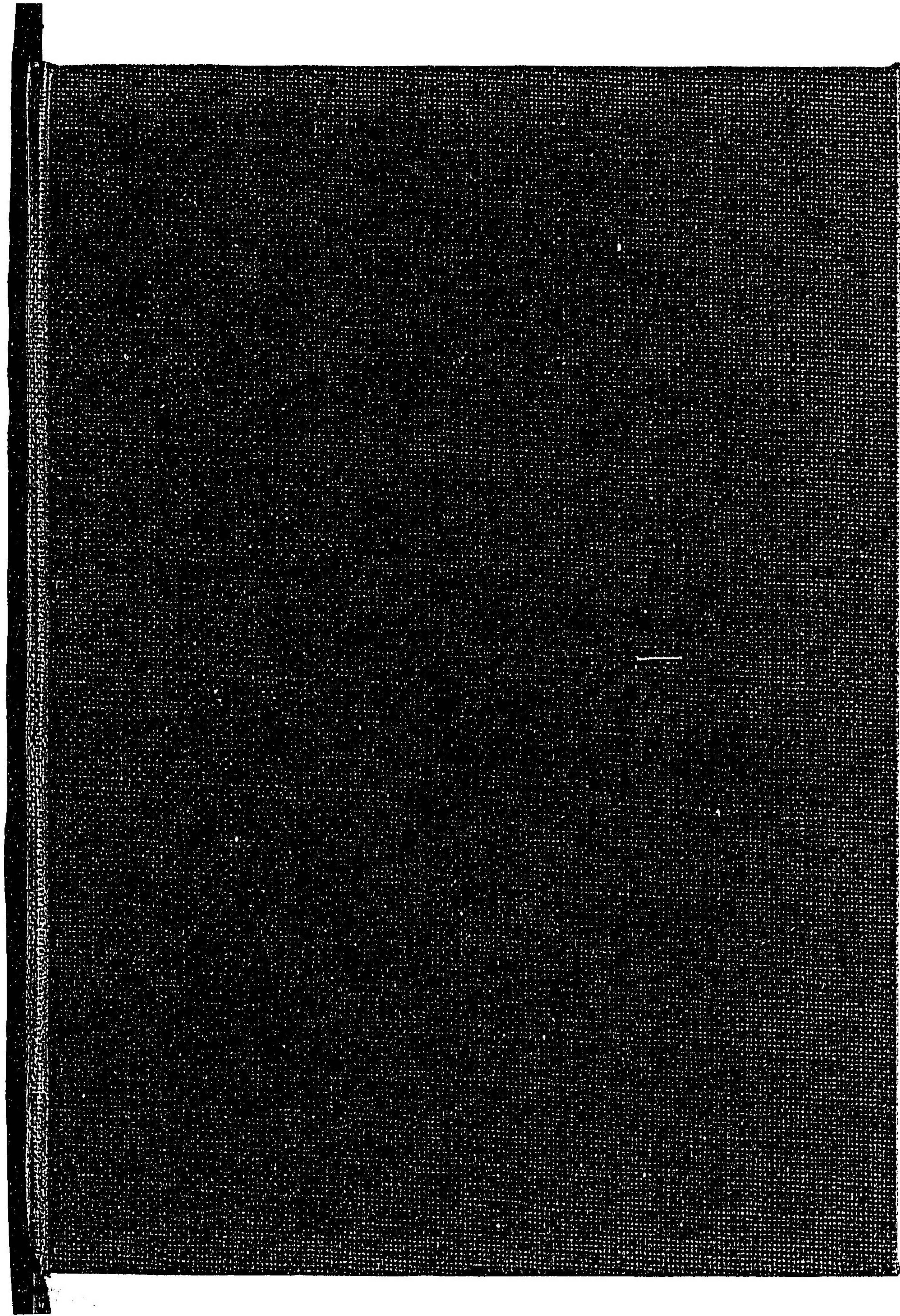
1000

1000

1000







禁電子式複写